

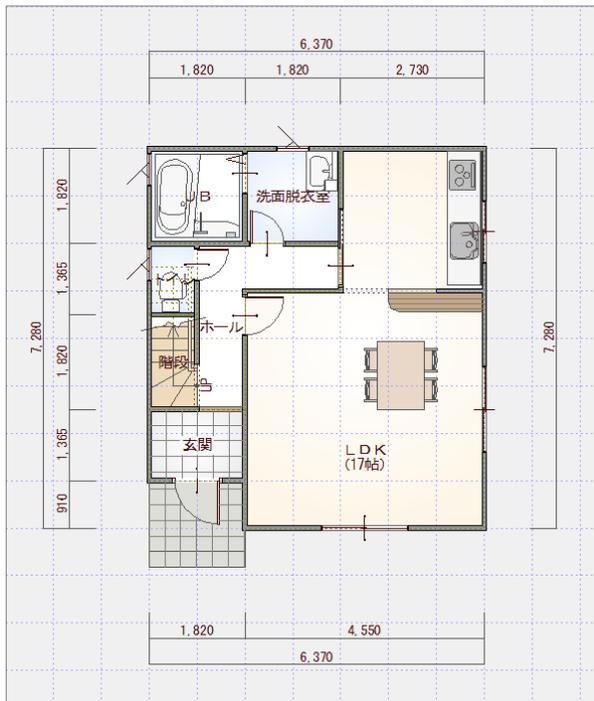


2×4 プラン作成編

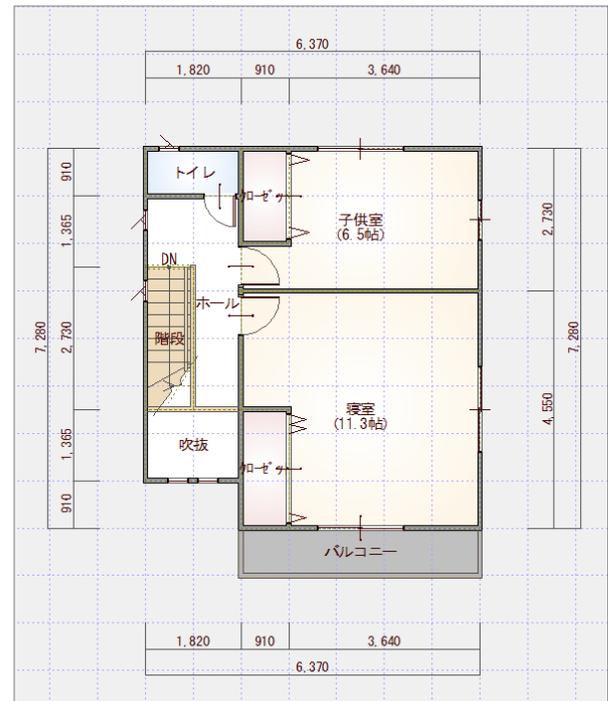
目次

作成するプラン	3	10 部品の入力	25
1 新規物件の作成	4	トイレに便器を入力する	25
物件情報を入力する	4	UB にユニットバスを入力する	26
図面ウィンドウを開く	5	LDK にシステムキッチンを入力する	26
[補足] 2×4 工法の高さの考え方	6	ダイニングテーブルを入力する	27
2 初期設定の確認	7	洗面化粧台を入力する	28
確認しておきたい設定	7	11 図面を仕上げる	29
建具の逃げを変更する	8	部屋名を移動する	29
[補足] スタッドサイズ・たて枠・ 開口オフセットの考え方	9	図面化を行う	29
3 部屋の入力	10	12 2階の入力	30
矩形の部屋を入力する	10	作成階を変更する	30
多角形の部屋を入力する	11	部屋を入力する	30
部屋を重ねて入力する	11	バック図面を非表示に切り替える	31
空きスペースに部屋を入力する	11	建具を入力する	31
作図範囲を設定する	12	残りの建具を入力する	32
データを保存する	12	壁・仕上を一括作成する	33
4 建具の入力	13	バルコニーを入力する	33
引違の建具を入力する	13	外観を確認する	34
建具のサイズを優先して入力する	14	建具の取付高を変更する	34
開きの建具を入力する	15	図面を仕上げる	35
残りの建具を入力する	16	13 屋根の入力・天井仕上の確認	36
5 階段の入力	17	2階 屋根伏図を開く	36
6 壁・仕上の一括作成	19	屋根を自動配置する	36
7 立体の確認	20	玄関庇を入力する	38
パースモニタを起動する	20	1階の天井を再作成する	39
立体を確認する	20	2階の天井を確認する	39
1階 平面図に切り替える	20	付録 1 FL 基準と床高・ 天井高の考え方	40
8 壁の追加	21	付録 2 外観パースの完成図	42
間仕切り壁を入力する	21		
仕上を作成する	22		
立体データを確認する	22		
9 シンボルの入力	23		
カウンターを入力する	23		
玄関ポーチを入力する	24		

作成するプラン



【1階 平面図】



【2階 平面図】



【パースモニタ】

1 新規物件の作成

構造や階数といった主な条件を設定し、平面図 1 階を開きましょう。

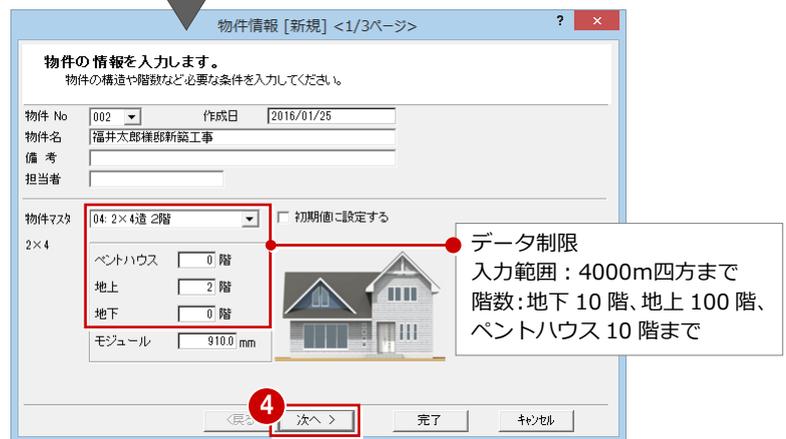
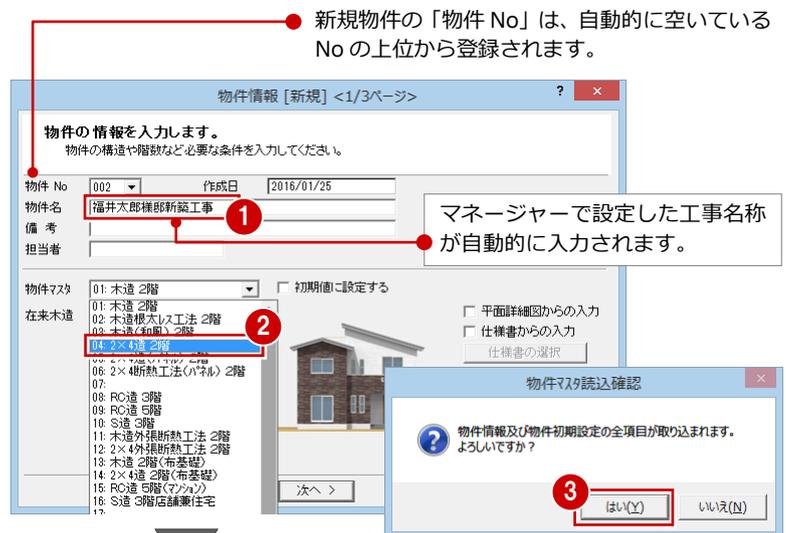
- ※ すでに図面ウィンドウを開いている場合は、「物件変更」をクリックして「物件選択」ダイアログに戻り、「新規」をクリックします。起動方法については、「基本操作編」P.4 を参照してください。



物件情報を入力する

「物件情報」ダイアログの<1/3 ページ>を設定しましょう。

- 1 物件名を確認します。
- 2 「物件マスタ」を「04 : 2×4 造 2 階」に変更します。
- 3 確認画面で「はい」をクリックします。階数やモジュールの設定が 2 階建て 2×4 工法用に切り替わります。
- 4 「次へ」をクリックします。



2×4 用の「物件情報」ダイアログが開きます。<2×4 1/3 ページ>を設定しましょう。

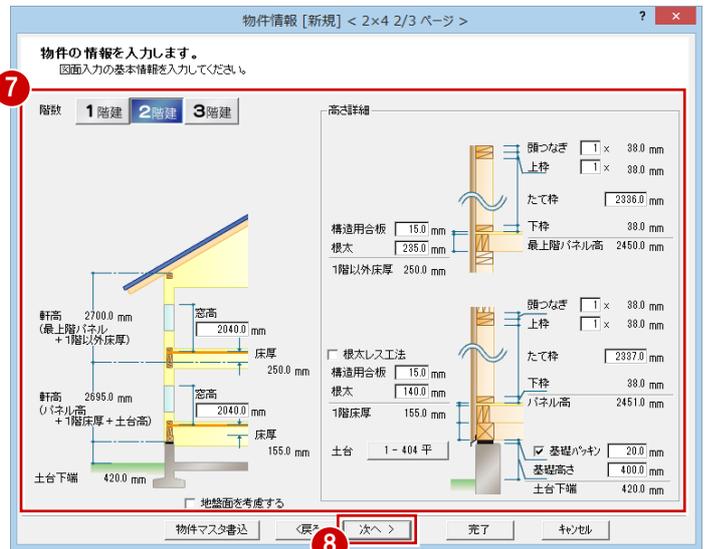
- 5 6 用途地域や建ぺい率、容積率などを設定して、「次へ」をクリックします。

※ 敷地面積は、配置図の入力後に自動で取得できるため、ここで入力しておく必要はありません。



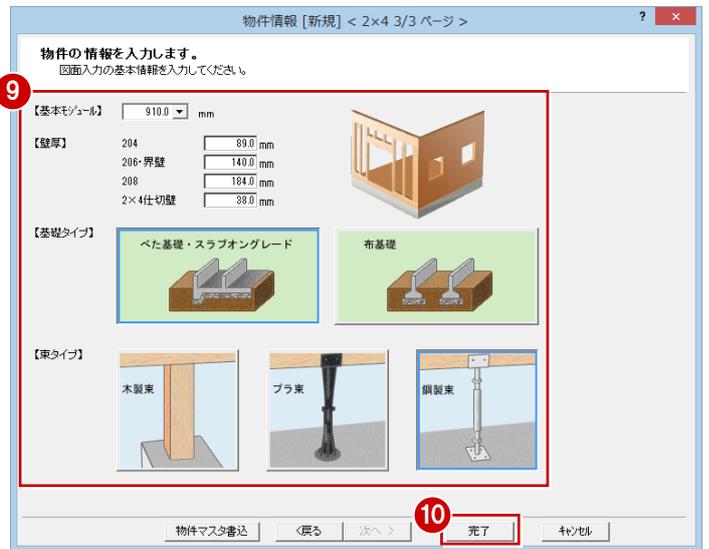
<2×4 2/3 ページ> を設定しましょう。

- 7 8 基準高さを設定して、「次へ」をクリックします。



<2×4 3/3 ページ> を設定しましょう。

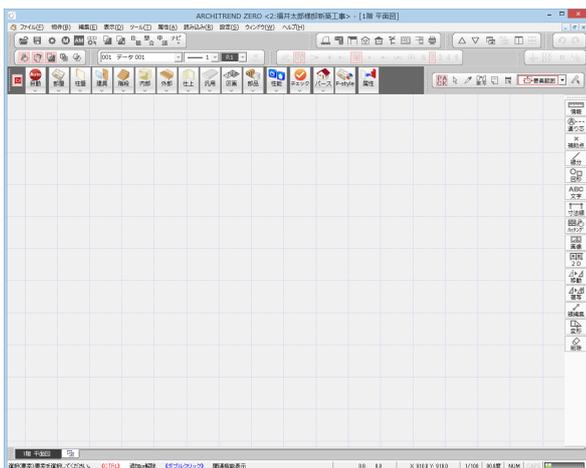
- 9 10 モジュール、壁厚、基礎・束タイプを設定して、「完了」をクリックします。



図面ウィンドウを開く

- 1 2 「平面図」をクリックして、「1階」をダブルクリックします。
1階平面図のウィンドウが開きます。

タブやボタンの切り替えて、他のプログラムも表示されます。

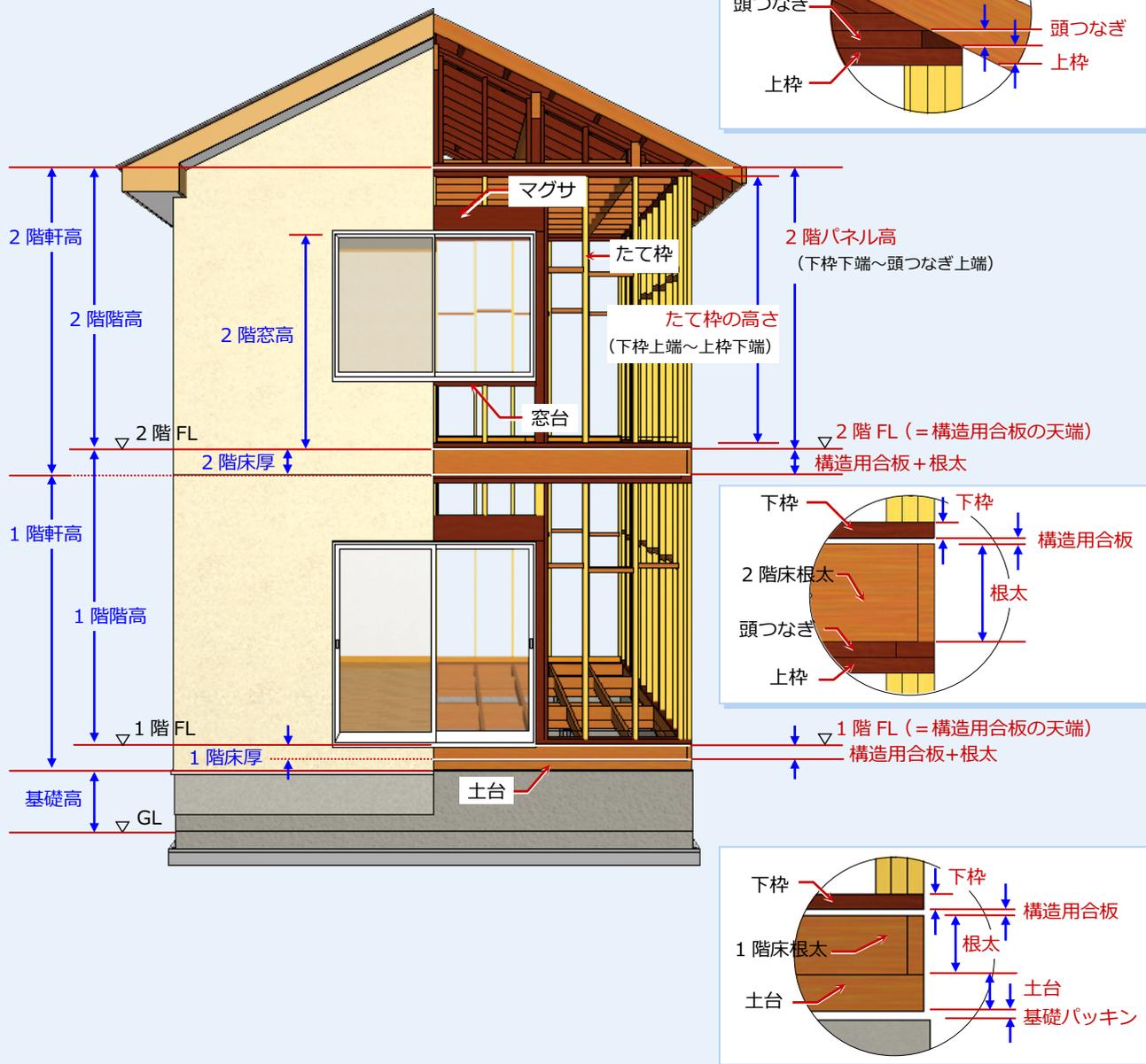


※「処理選択」ダイアログのアイコンに  マークが表示されているプログラムは使用できません(現在ご購入いただけていないプログラムです)。

⇒ ZERO の画面まわりについては、「基本操作編」P.5 参照

【補足】2×4 工法の高さの考え方

2×4 と木造では、高さの考え方が異なります。
 下図から 2×4 物件の基準高について確認してみましょう。



※ 構造用合板や基礎パッキンは立体データがないため、構造パースモニタでは隙間があるように見えます。

基準高	設定する高さ	基準高を参照する部材、自動描画など
GL		敷地高さ、ポーチ、犬走りの下端高の基準
基礎高	GL から布基礎上端まで	床下換気口の上端位置基準、断面図／矩計図の躯体自動時の基礎高さ
FL	構造用合板の天端 (床厚により階のFLが決まります) 2F床厚：構造用合板厚+根太 1F床厚：構造用合板厚+根太	部屋の床高の基準、たれ・腰壁の下端基準 内部階段の始点高・終点高の基準 建具の取付高（基準増減）の下端基準
軒高	2F：根太下端から2階頭つなぎ上端まで 1F：土台下端から頭つなぎ上端まで	屋根の取付高（軒高基準）の増減 小屋裏換気口の上端高の基準
階高	下階FL から上階FL まで	
窓高	FL から窓上端まで	建具の取付高（基準増減）の上端基準

2 初期設定の確認

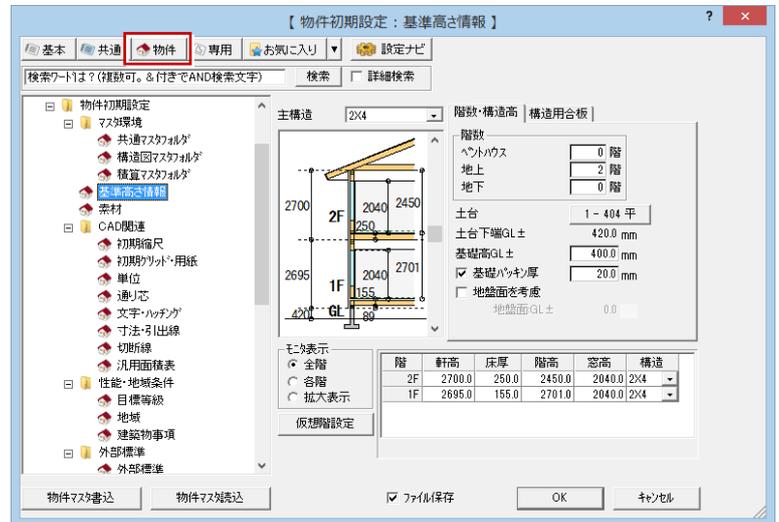
物件データを入力する前は、物件初期設定の設定内容を確認しましょう。これらを正しく設定しておくことで、効率よく操作できたり、図面作成時の作業の手間を軽減させることができます。

⇒ 初期設定については、「基本操作編」P.12 参照

確認しておきたい設定

2×4 では、以下の設定項目は重要です。
必ず確認してください。

- 基準高さ情報（階数、基準高など）
- 初期縮尺（図面の縮尺）
- 初期グリッド・用紙（モジュール、用紙など）
- 建築物事項（用途地域など）
- 外部標準（外壁・屋根・軒天井の仕上選択）
- 柱・基礎・束（基礎タイプ、束タイプなど）
- 壁（壁厚、割付ピッチなど）
- 入力モード・逃げ（2×4 用逃げ設定など）
- 2×4 専用（スタッドサイズ、建具入力補正など）



※ 本書では、以降の操作において、すべての設定の各ページを「物件初期設定（基準高さ情報）」ダイアログのように表記します。

インチ・フィートのモジュールを使用するには

出荷時の標準マスタでは、910 mmモジュールを使用していますが、16 インチ (=406.4 mm) または 24 インチ (609.6 mm) のモジュールを使用したいときや、部材寸法などをインチで指定したいときは、次のように「物件初期設定」で設定します。

モジュールの変更は、「物件初期設定（CAD 関連 - 初期グリッド・用紙）」ダイアログで行います。

「グリッド設定」の「間隔 X」「間隔 Y」の単位部分をクリックすると、mm → cm → m → inch → feet → 寸 → 尺 → 間 → mm・・・と切り替わります。

16 インチモジュールに変更したい場合は、「グリッド設定」の「間隔 X」「間隔 Y」の単位を「inch」に変更し、「間隔 X」「間隔 Y」を「16」に変更します。

グリッドの大きさが 16 インチに変更されます。

また、入力時の単位の変更は、「物件初期設定（CAD 関連 - 単位）」ダイアログで行います。

寸法表記が「feet/inch」の場合、「○'○'○」で表記されます。

入力時の単位をインチに変更したい場合は、次のように変更します。

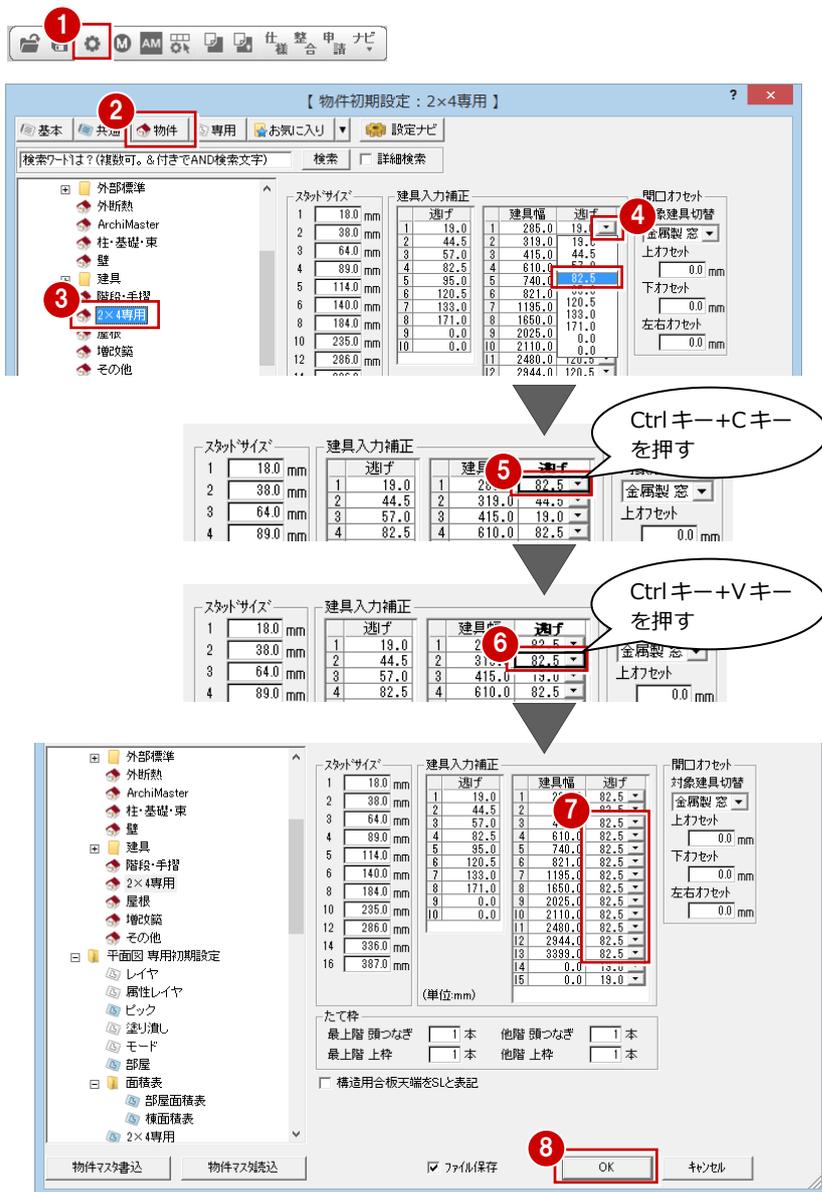
- ・【寸法表記】の「単位」:「feet/inch」
- ・【入力補助】の「表示単位」:「inch」
- ・【サンプル】の単位部分:「inch」

単位の初期値が「inch」となります。

建具の逃げを変更する

ここで作成する物件は、建具幅に関係なく一定の逃げで入力するため、逃げの初期値を 82.5 mm に変更します。

- ① 「設定」をクリックします。
- ② 「物件初期設定」をクリックします。
- ③ ツリーから「2×4 専用」を選びます。
- ④ 「逃げ」の「▼」をクリックして「82.5」を選びます。
- ⑤ 変更したセルを選択した状態で、Ctrl キーを押しながら C キーを押して、逃げの値をコピーします。
- ⑥ 数値を変更したいセルを選択して、Ctrl キーを押しながら V キーを押します。コピーした逃げの値がセルに貼り付けられます。
- ⑦ 同様な操作で、残りの逃げの値を「82.5」に変更します。
- ⑧ 「OK」をクリックします。



建具幅と逃げについて

建具幅に対する逃げの初期値は、次のような場面で使用されます。

■ 通常の建具入力の場合（建具幅指定）

建具幅を指定して入力する場合に、リストから選んだ建具幅に合わせて、対応する逃げがセットされます。

建具の入力時に逃げを変更したい場合は、「入力点補正」ダイアログのリストから選びます。

リストには、「物件初期設定 (2×4 専用)」ダイアログの「建具入力補正」の「逃げ」の値が表示されます。

スタッドサイズ	建具入力補正	開口オフセット
逃げ	建具幅	逃げ
1 18.0 mm	1 19.0	1 285.0 19.0
2 38.0 mm	2 44.5	2 319.0 44.5
3 64.0 mm	3 57.0	3 415.0 19.0
4 89.0 mm	4 82.5	4 610.0 82.5
5 114.0 mm	5 95.0	5 740.0 82.5
6 140.0 mm	6 120.5	6 821.0 44.5
7 140.0 mm	7 133.0	7 1195.0 82.5
8 184.0 mm	8 171.0	8 1650.0 82.5
9 235.0 mm	9 0.0	9 2025.0 82.5
10 235.0 mm	10 0.0	10 2110.0 82.5
12 286.0 mm	11 2480.0	11 2480.0 120.5
14 336.0 mm	12 2844.0	12 2844.0 82.5
16 387.0 mm	13 3393.0	13 3393.0 120.5
	14 0.0	14 0.0 19.0
	15 0.0	15 0.0 19.0

■ クイック建具入力の場合

建具幅に合わせて、対応する逃げで入力されます。

【補足】スタッドサイズ・たて枠・開口オフセットの考え方

「物件初期設定（2×4専用）」ダイアログの「スタッドサイズ」「たて枠」「開口オフセット」について解説します。

■ 「スタッドサイズ」

2×4の部材の製材寸法を設定します。

104の製材寸法：18.0×89.0

206の製材寸法：38.0×140.0

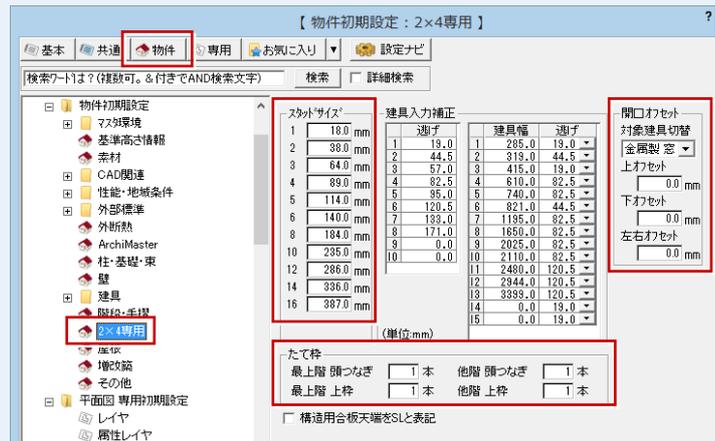
としたい場合、次のように設定します。

「1」：18.0、「2」：38.0、「4」：89.0、「6」：140.0

■ 「たて枠」

頭つなぎと上枠の本数を設定します。

「最上階」とは最上階を指し、「他階」とは最上階以外を指します。



スタッドサイズ、たて枠の頭つなぎ・上枠の本数は、建物の基準高さに影響します。これらを変更すると、「物件初期設定：基準高さ情報」ダイアログに連動します。

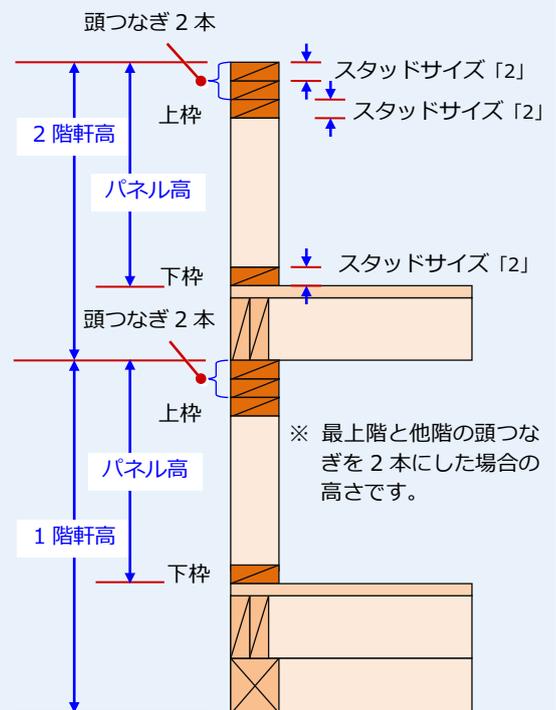
そのため、製材の寸法、本数を変更することでパネル高が変わり、建物の軒高・階高も変わることになります。

右図における2階パネル高と2階軒高は、次のようになります。

$$\begin{aligned} \text{▼ パネル高} &= (\text{頭つなぎ} \times \text{本数}) + (\text{上枠} \times \text{本数}) + \text{たて枠} + \text{下枠} \\ &= 38.0 \text{ mm} \times 2 \text{ 本} + 38.0 \text{ mm} \times 1 \text{ 本} + 2336.0 \text{ mm} + 38.0 \text{ mm} \\ &= 2488 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{▼ 軒高} &= \text{パネル高} + \text{床厚} \\ &= 2488 \text{ mm} + 250 \text{ mm} \\ &= 2738 \text{ mm} \end{aligned}$$

※「スタッドサイズ」「たて枠」は、物件の高さ以外にも、矩計図、2×4構造図の製材寸法、たて枠躯体の上枠、頭つなぎなどの配置に影響します。

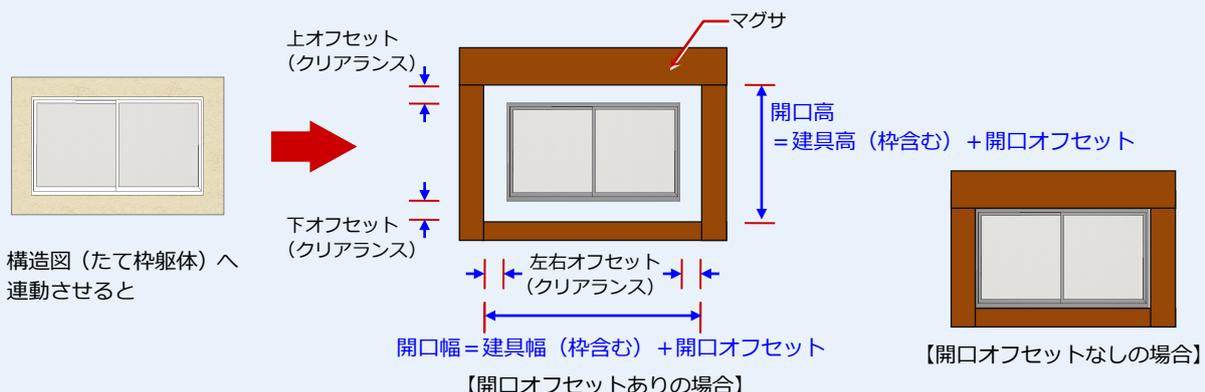


■ 「開口オフセット」

2×4工法では、窓やドアの枠と構造躯体の間に隙間を設けて、構造躯体の変化する影響を直接受けたくないような施工をしますが、このような少し大きめの開口のことを「ラフ開口」と呼びます。

「開口オフセット」は、2×4構造図のたて枠躯体において、平面図で配置した建具をもとにラフ開口幅（高）でマグサなどを作成するときに使用します（矩計図や2×4壁量計算などにも影響します）。

※「開口オフセット」は、「金属製窓」「木製窓」「金属製戸」「木製戸」の4種類について、それぞれ設定できます。



3 部屋の入力

1 階平面図に部屋を入力します。

部屋はすべてのデータの元になるため、必ず入力します。入力したい部屋名がない場合も、属性の近い部屋を選択して入力しましょう。

塗り潰しについて

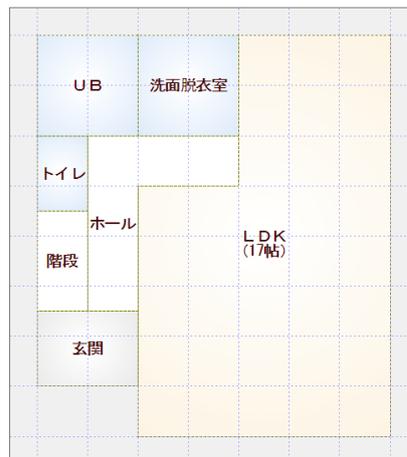
塗り潰す対象の部材や色は、「平面図 専用初期設定 (塗り潰し)」ダイアログで設定します。

※ 塗り潰しの表示・非表示は、ツールバーで切り替えます。



: 塗り潰し表示

: 塗り潰し非表示

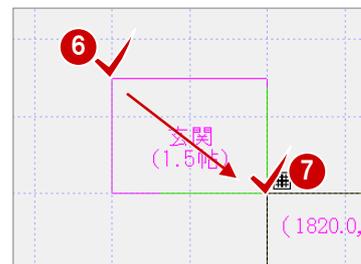
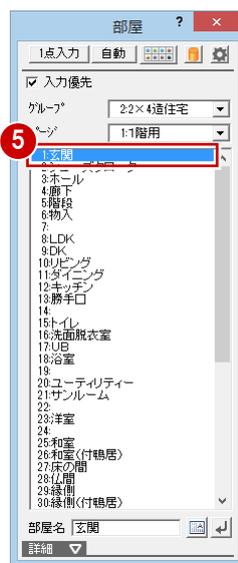


矩形の部屋を入力する

- 1 「部屋」をクリックします。
- 2 入力方法が「矩形」であることを確認します。
- 3 4 「グリッド」のみ ON、「グリッド分割」が「2」であることを確認します。
⇒ ピックモードについては、「基本操作編」P.6 参照
- 5 入力したい部屋（「玄関」）を選びます。
- 6 7 部屋の始点 ⇒ 対角点をクリックします。
- 8 同様な操作で、「階段」「UB」「洗面脱衣室」を順に入力します。

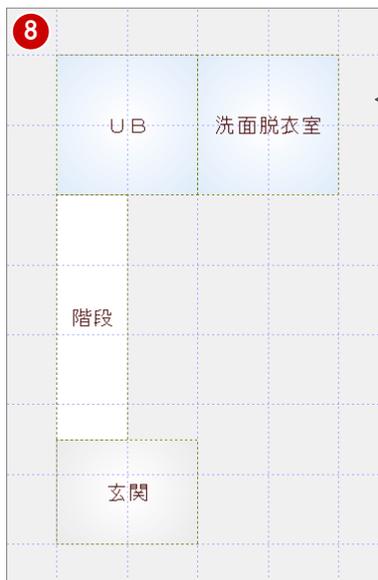
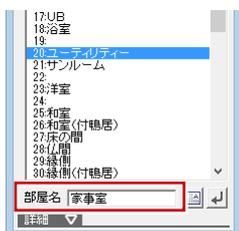


※ 以降の操作においても特に説明がない限り、「グリッド」のみ ON、「2 分割」を使用します。



入力したい部屋名がないときは

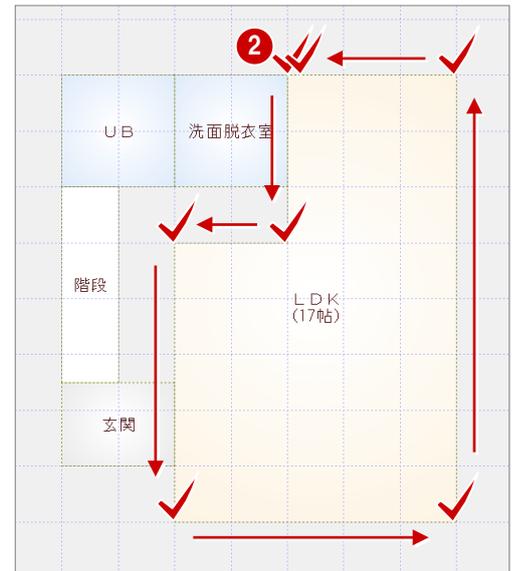
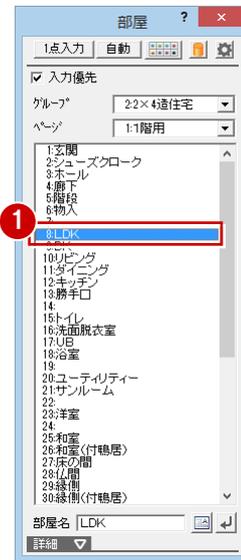
「部屋」ダイアログで属性の近い部屋を選んだ後、「部屋名」を変更します。



多角形の部屋を入力する

- 1 「LDK」 をクリックします。
- 2 部屋の始点をクリックし、水平もしくは垂直の位置に2点目を取ると、一時的に多角形入力になります。
部屋のコーナーを順にクリックし、最後に開始点(1点目)と同じ位置をクリックします。

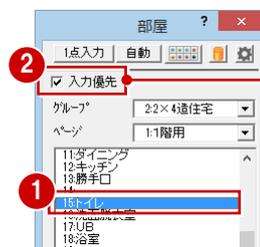
⇒ 一部Rの部屋入力については、「基本操作編」P.7 参照



6点目をクリックした後に、ポップアップメニューの「OK」を選んで、同様の操作が行えます。

部屋を重ねて入力する

- 1 「トイレ」 を選びます。
- 2 「入力優先」 にチェックが付いていることを確認します。
- 3 4 右図のように、部屋の始点 ⇒ 対角点をクリックします。

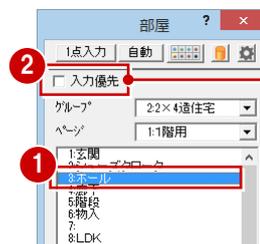


「入力優先」のチェックを付けて入力すると、指定した範囲を優先して部屋を入力できます。
⇒ 入力優先については、「基本操作編」P.7 参照

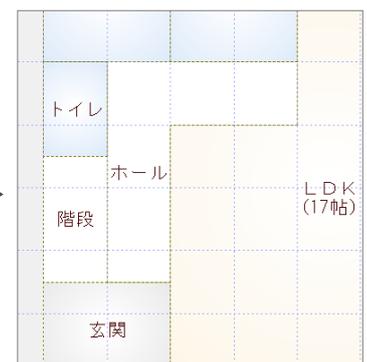


空きスペースに部屋を入力する

- 1 「ホール」 を選びます。
- 2 「入力優先」 のチェックがはずれていることを確認します。
- 3 4 ホール全体を囲むように、部屋の始点 ⇒ 対角点をクリックします。



「入力優先」のチェックをはずして入力すると、指定した範囲のうち、部屋が入力されていないスペースに部屋を入力できます。



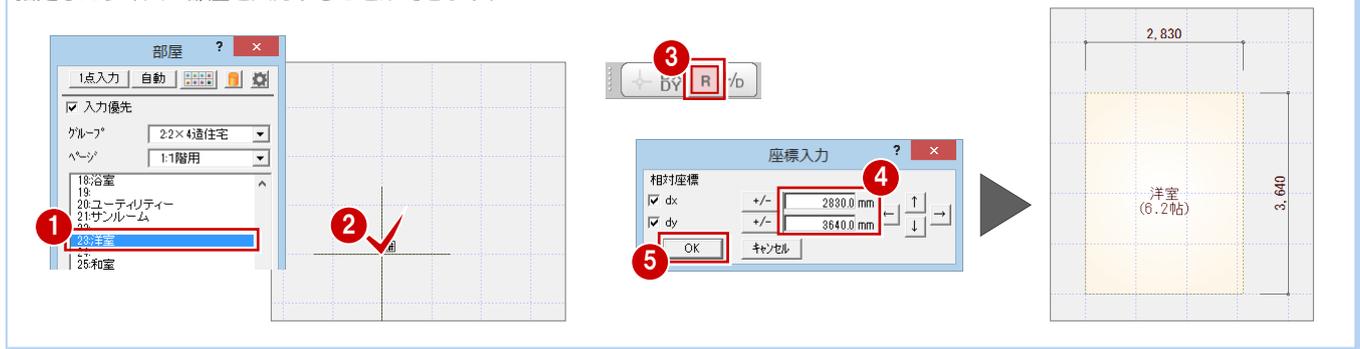
入力優先の自動切り換えについて

初期状態では「ホール」「廊下」を選択すると、「入力優先」のチェックがはずれて、それ以外の部屋を選択すると、チェックが付くようになっています。
自動切り換えは、「共通初期設定(モード)」ダイアログの「ホール・廊下タイプの入力優先をOFF」で設定します。

座標を使った部屋入力

間くずれした部屋を入力するときは、座標入力で部屋のサイズを指定する方法を利用します。

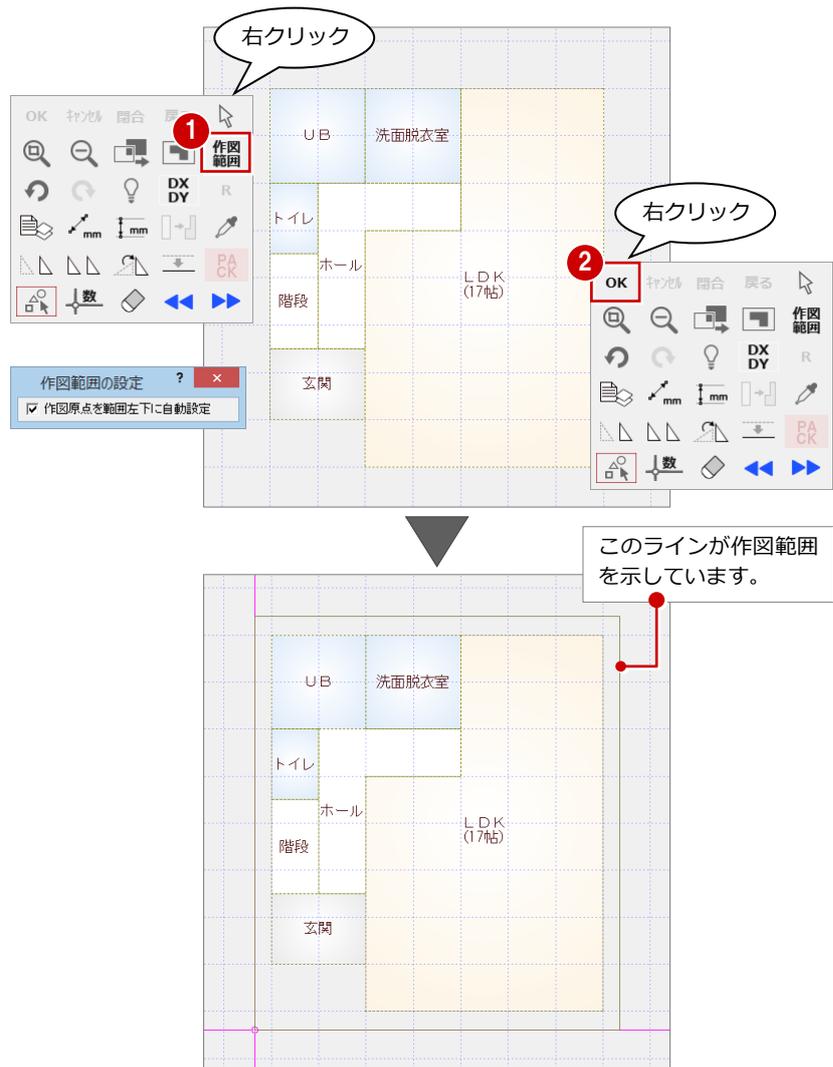
部屋を選び、始点をクリックしたあとに、「相対座標入力」をONにします。「dx」「dy」に部屋サイズを入力して「OK」をクリックすると、指定したサイズの部屋を入力することができます。



作図範囲を設定する

- ① 右クリックして、ポップアップメニューから「作図範囲」を選びます。
- ② 再度、右クリックして「OK」を選びます (Enter キーでも同様)。
部屋全体が収まるように作図範囲が設定されます。

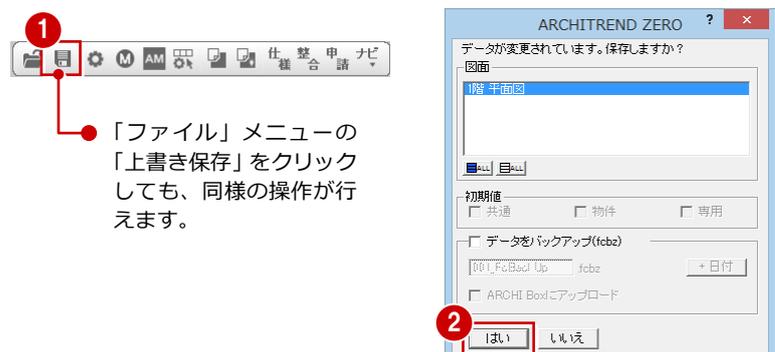
⇒ 作図範囲については、「基本操作編」P.11 参照



データを保存する

- ① ツールバーの「上書き保存」をクリックします。
- ② 保存する図面を確認して、「はい」をクリックします。

以降の操作においても、区切りの良いところで、データを保存するようにしましょう。

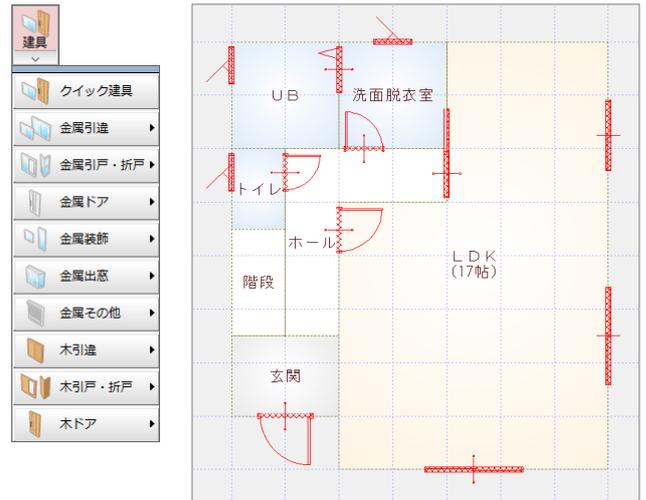


4 建具の入力

窓やドア、木製戸などの建具を入力しましょう。

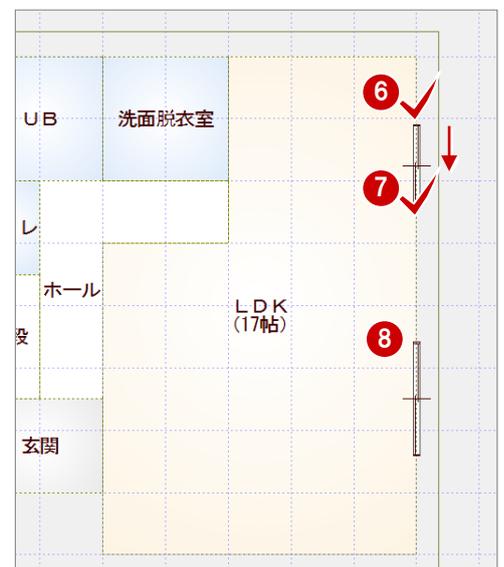
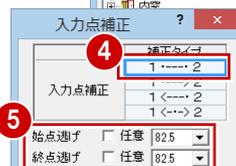
建具の入力には、以下の2通りの方法があります。

- クイック建具入力を使用して、指定した部屋と幅に応じた建具を自動配置する方法
⇒ 平面図 2 階の建具は、こちらの方法で入力します。
- 建具入力バーから入力したい建具を選んで、入力位置を指定する方法
⇒ 平面図 1 階の建具は、こちらの方法で入力します。



引違の建具を入力する

- 1 「建具」をクリックします。
- 2 「金属引違」メニューから「2枚引違窓」を選びます。
- 3 一覧から「アルミ樹脂 w1650h1100」をダブルクリックして選択します。
- 4 「補正タイプ」が「1 ↔ 2」であることを確認します。
- 5 逃げを「82.5」に変更します。
- 6 7 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。
- 8 同様な操作で、右図の位置に入力します。



建具の入力方向について

外部建具の場合、入力方向に関係なく、部屋領域から判断して建物外部に建具の外側が向くように自動設定されます。

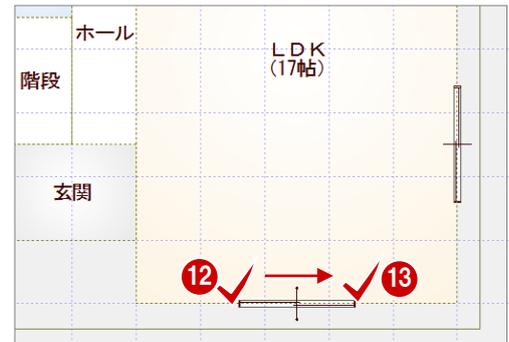
内部建具の場合、始点→終点方向の右側が建具の内側になります。部屋の内部を中心に時計回りで入力してください。

9 「建具変更」をクリックします。

10 11 一覧から「2枚引違い」を選んで、「アルミ樹脂 w1650h2000」をダブルクリックします。



12 13 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。



建具のサイズを優先して入力する

洗面脱衣室、UB、トイレに縦すべり窓を入力しましょう。

1 「金属装飾」メニューから「縦すべり」を選びます。

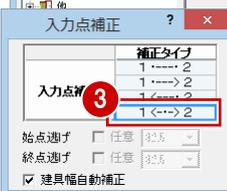
2 「アルミ樹脂 w600h700」をダブルクリックして選択します。



3 「補正タイプ」を 1 ↔ 2 に変更します。

4 「寸法固定」を ON にします。

5 6 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。

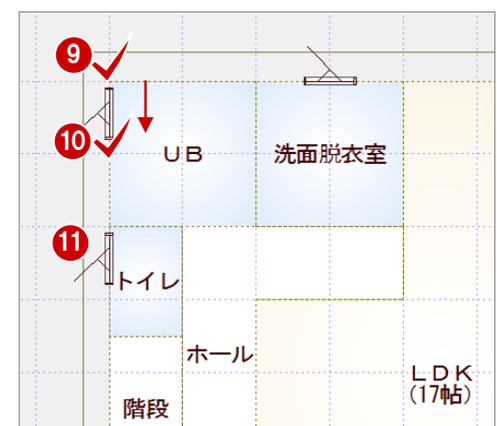
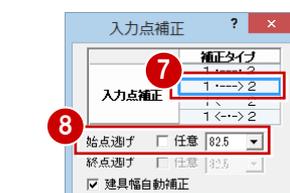


7 「補正タイプ」を 1 → 2 に変更します。

8 「始点逃げ」が「82.5」であることを確認します。

9 10 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。

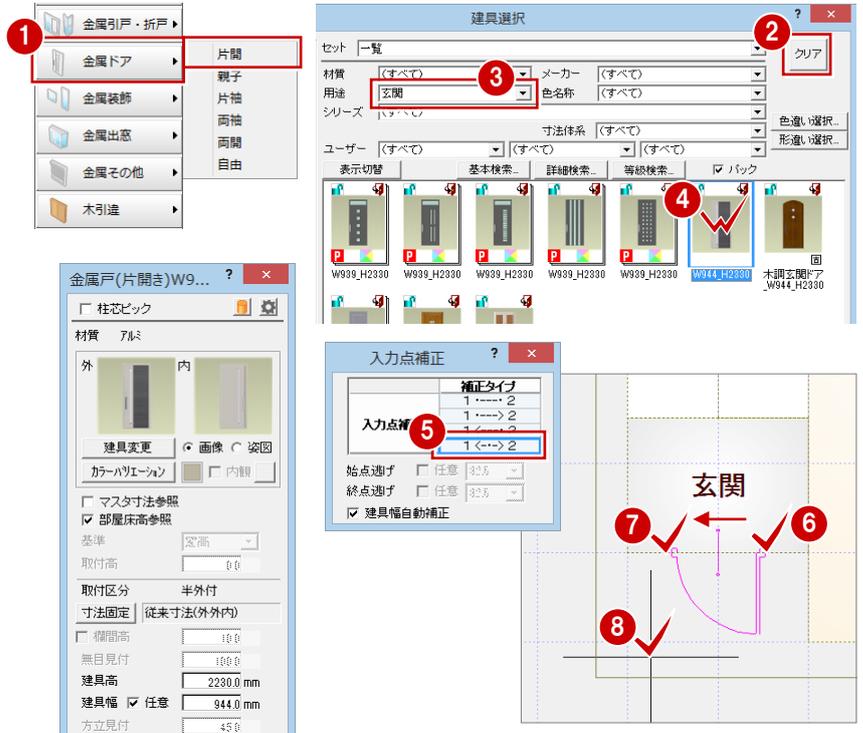
11 同じ建具をトイレに入力します。



補正タイプを 1 ↔ 2 以外にすると
 「建具幅」を任意のサイズに変更したり、「物件初期設定 (2×4 専用)」ダイアログの「建具幅」の設定からサイズを選択することができます。
 ここでは、Archi Master に登録されているサイズを使用するため、「寸法固定」を ON にして操作します。

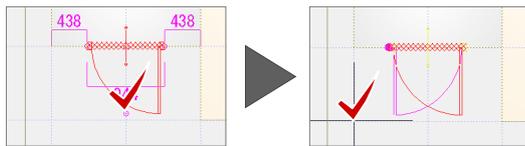
開きの建具を入力する

- 1 「金属ドア」メニューから「片開」を選びます。
- 2,3 「クリア」をクリックして、「用途」を「玄関」に変更します。
- 4 「W944_H2330」をダブルクリックして選択します。
- 5 「補正タイプ」を「1<--->2」に変更します。
- 6~8 扉の吊元側 ⇒ 取手側 ⇒ 開く方向の順にクリックします。



建具の開き方向を変更するには

選択データに表示されるトラッカー (○) をクリックして方向を指定すると、開き勝手を変更できます。



※「建具」メニューの「建具開き勝手変更」でも行えます。

補正タイプについて

- 1 ----- 2 : 始点逃げ、終点逃を考慮した値で建具幅が決まります。建具選択時に選んだ建具幅は無効になります。
- 1 ----> 2 : 始点側に建具を寄せて入力します。始点逃を考慮して、指定した建具幅の建具が配置されます。
- 1 <---- 2 : 終点側に建具を寄せて入力します。終点逃を考慮して、指定した建具幅の建具が配置されます。
- 1 <---> 2 : 始点・終点の中央に、指定した建具幅の建具が配置されます。

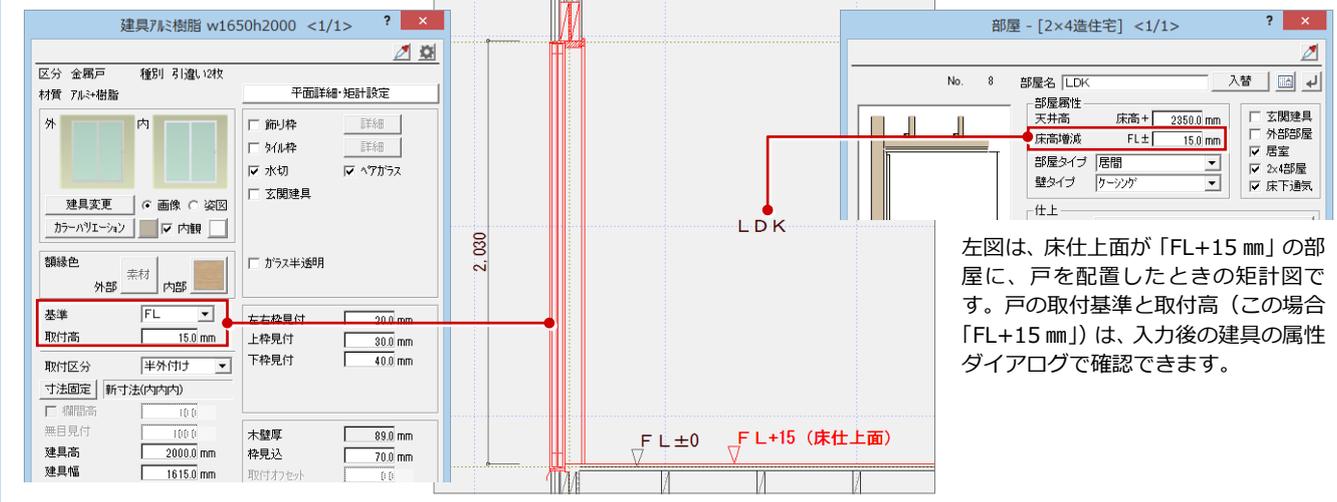
建具の取付基準と取付高の考え方

窓の場合、初期値では鴨居高に合うように配置されます。取付高を指定して入力したいときは、「鴨居高参照」のチェックをはずして「基準」と「取付高」を変更します。

戸の場合、初期値では部屋床高に合うように配置されます。取付高を指定して入力したいときは、「部屋床高参照」のチェックをはずして「基準」と「取付高」を変更します。

※ 2×4 の場合、構造用合板の天端が FL 基準で、部屋の床仕上面は「FL+15 mm」のように FL から上がった位置となるため、戸の取付高が「FL±0 mm」であると、戸が床仕上面に食い込んでしまいます。

建具 (戸) の入力ダイアログで「部屋床高参照」のチェックを付けておくと、下図のように、部屋の床仕上面に合わせて戸を配置できます。

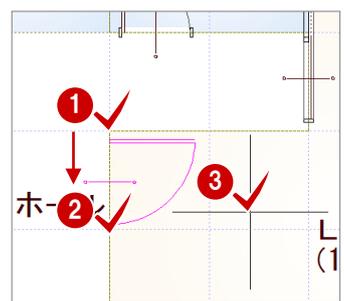
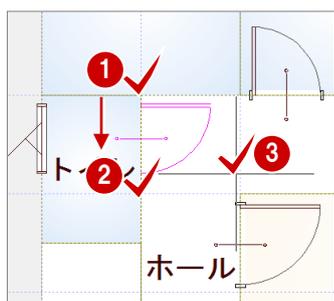
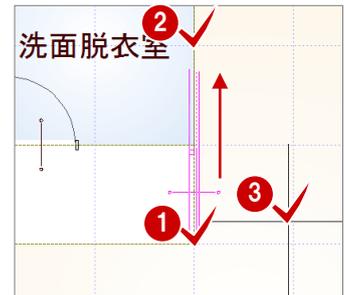
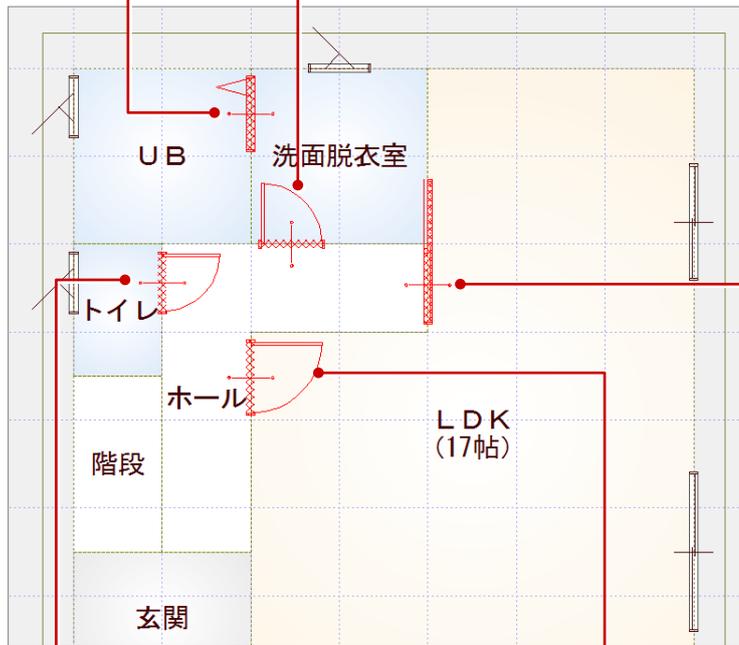
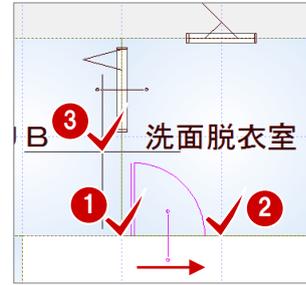
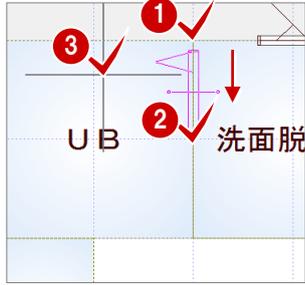


左図は、床仕上面が「FL+15 mm」の部屋に、戸を配置したときの矩計図です。戸の取付基準と取付高（この場合「FL+15 mm」）は、入力後の建具の属性ダイアログで確認できます。

残りの建具を入力する

残りの建具を次図のように入力しましょう。

※「補正タイプ」は 1<--->2、
「始点逃げ」は「82.5」に設定
します。



5 階段の入力

階段部屋に、手摺付き階段を入力してみましょう。

階段は一括作成の前に入力しておきます。そうすることで、一括作成にてトイレの壁がうまく納まるように自動処理されます。

- ① 「階段」 をクリックします。

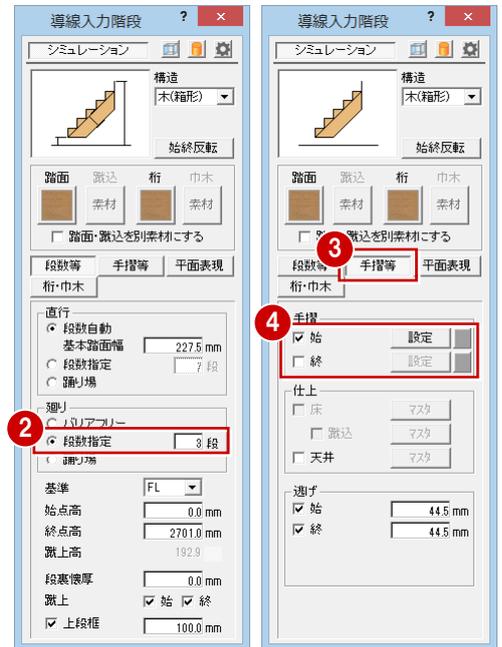


- ② 「廻り」 の「段数指定」 を「3」 に変更します。

- ③ 「手摺等」 をクリックします。

- ④ ここでは、内側だけに手摺を付けるため、「終」 のチェックをはずして、「始」 のみ ON に変更します。

直行階段の「段数自動」について
 直行階段を「段数自動」に設定している場合は、「階段奥行 ÷ 基本踏面幅」を四捨五入して段数を自動計算しています。

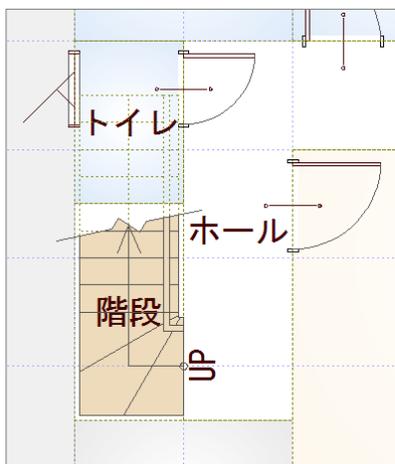
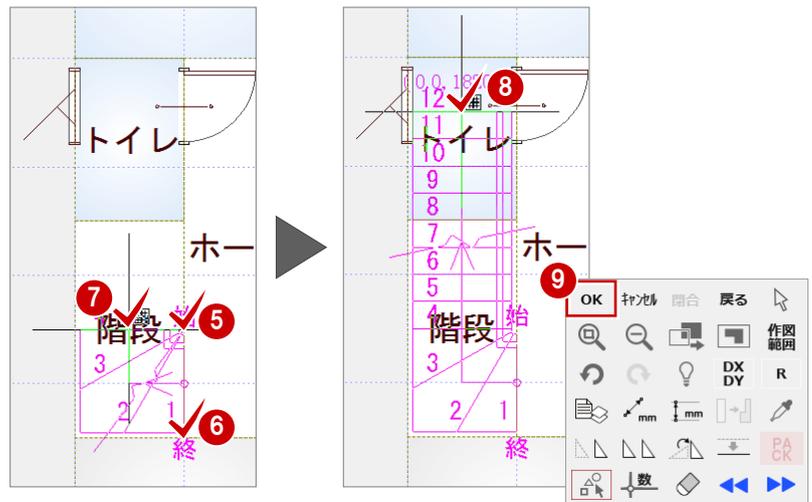


- ⑤～⑦ 階段の内側 ⇒ 外側 ⇒ 廻り階段の終点の順にクリックします。

- ⑧ 続けて、直行階段の終点位置をクリックします。

- ⑨ 右クリックして「OK」を選びます。

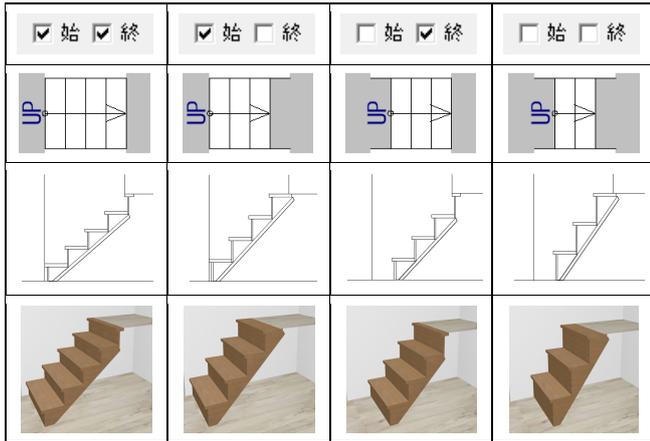
- ⑩ 立体モニターで形状を確認し、「OK」をクリックします。



- パースモニターと同様に、視点を調整できます。

蹴上の設定

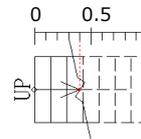
「蹴上」の「始」「終」の設定によって、踏面段数の表現が異なります。



切断線の設定

ダイアログの「平面表現」をクリックすると、導線や UP・DN 文字、切断線の設定ができます。

- 「切断線」の「位置」
階段の開始位置を 0、終了位置を 1 として切断線の描画位置を設定



- 「切断線」の「方向」
切断線の上方向を、階段入力の始点（1 点目）にするか終点（2 点目）にするかの設定



階段シミュレーション

階段シミュレーションでは以下のことができます。詳しい機能についてはヘルプを参照してください。



【色変更】
階段や手摺の素材を設定します。



【構造・桁】
階段の構造や桁の形状を設定します。
全体または部分別に設定できます。



【手摺形状】
手摺の形状を設定します。
全体または部分別に設定できます。



【全体デザイン】
タイプを選択してシミュレーションを実行すると、立体モニターで階段のいろいろなイメージを確認できます。また、蹴上の設定も可能です。



【平面表現】
切断線の位置や導線などを設定します。

6 壁・仕上の一括作成

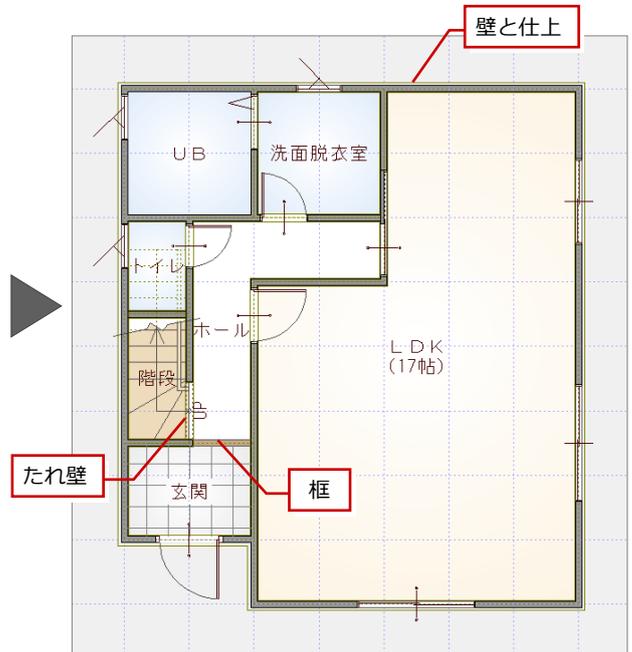
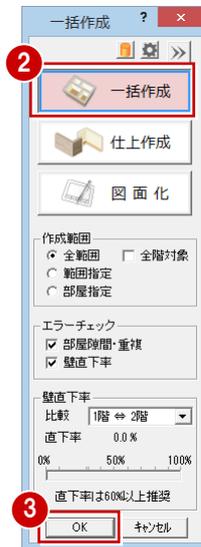
部屋データをもとに、壁や枠などの部材、仕上を自動配置しましょう。

① 「自動」をクリックします。



②③ 「一括作成」がONの状態であることを確認して、「OK」をクリックします。

部屋線の上に壁が配置され、仕上や枠などの部材も同時に配置されます。



仕上のラインについて

処理が終了した直後には、配置された仕上のラインが表示されます。このラインは、他のコマンドを選んだ時点で非表示になります。

作業中、仕上の表示/非表示を切り替えるには、「表示」メニューの「仕上表示」を使用します。

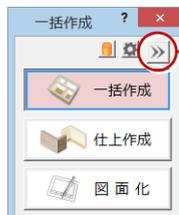
1階 天井伏図を開く

「一括作成」では天井仕上も配置するため、自動的に「1階 天井伏図」を開きます。



一括作成の詳細設定

「一括作成」ダイアログの >> をクリックすると、詳細画面が開きます。この画面で実行する処理項目を確認（または変更）できます。



>> をクリックすると、詳細画面が開きます。

詳細画面を閉じるときは、再度 << をクリックします。

■ 作成範囲

「全範囲」：全データを対象に一括処理します。「全階対象」にチェックを付けると、他階の平面図も併せて一括処理の対象になります。

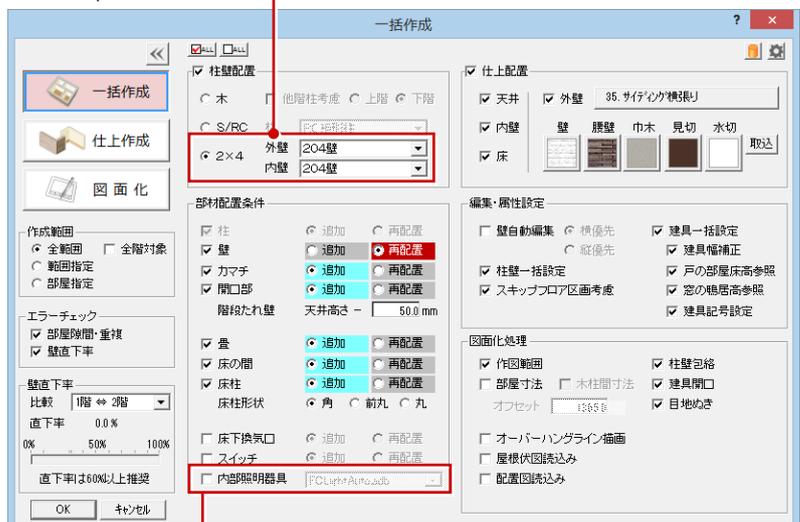
「範囲指定」：処理を行う範囲を指定します。「部屋指定」：指定した部屋のみ処理します。

■ 部材配置条件

「追加」：「作成範囲」で指定した範囲内にある入力済みのデータはそのまま、重複しない箇所に追加のみ行います。

「再配置」：「作成範囲」で指定した範囲内にある既存データを削除して再配置します。

⇒ 作成モードについては、「プラン作成編」P.20 参照



「外壁」「内壁」で配置する壁種別を選択します。⇒ 2×4 壁の自動配置条件は、次ページ参照

「内部照明器具」がONの場合、天井仕上の作成と同時に照明部品を自動配置します（初期値はOFF）。内観パースを作成する場合はONにしておくといでしょう。

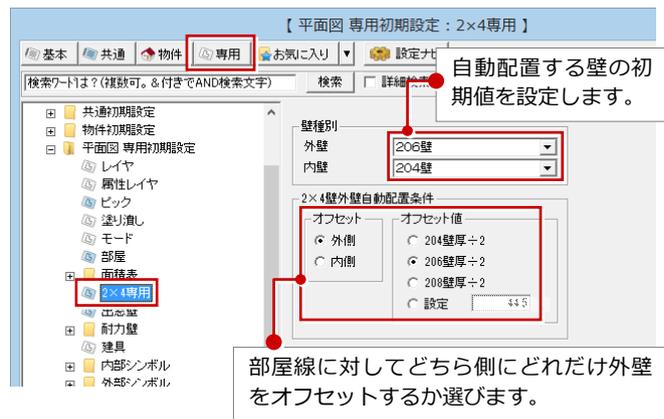
外壁の自動配置条件を設定するには

外壁を 204 壁、206 壁にするかは一括作成時に指定できますが、初期値は「専用初期設定 (2×4 専用)」ダイアログの「壁種別」で設定します。

また、外壁を部屋線のどちら側にどれだけオフセットさせるかは、同ダイアログの「2×4 壁外壁自動配置条件」で設定します。

例えば、外壁が 206 壁のとき、206 壁の壁芯が部屋線となるように自動配置するには、「オフセット」で「外側」、「オフセット値」で「206 壁厚÷2」を選びます。

※ 204 壁、206 壁、208 壁の厚さは、「物件初期設定 (壁)」ダイアログの【壁厚】の「204」「206・界壁」「208」で設定します。

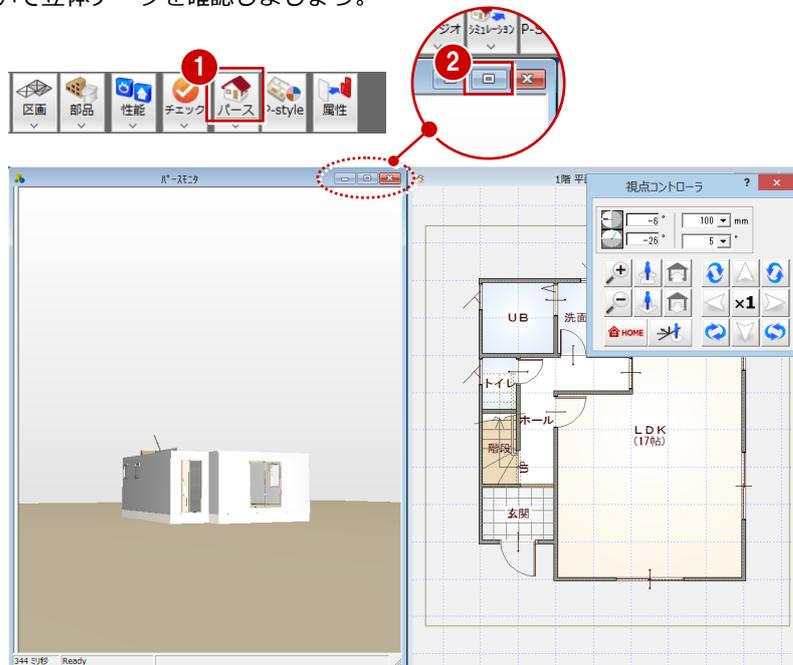


7 立体の確認

躯体・仕上を一括作成したら、パースモニタを開いて立体データを確認しましょう。

パースモニタを起動する

- 1 「パース」をクリックします。
「パースモニタ」ウィンドウが開いて、立体データが作成されます。
- 2 「最大化」をクリックして、ウィンドウの表示を最大化します。



仮想地盤面について

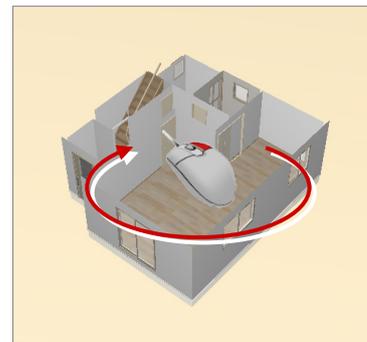
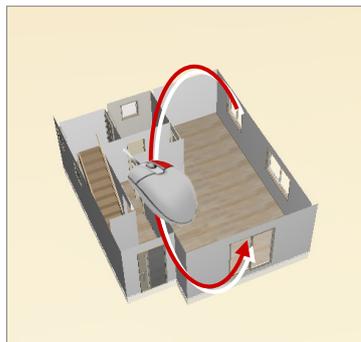
配置図の敷地データがない場合に、パースモニタ上で仮想の地盤面の立体データが作成されます。仮想地盤面は、属性変更で高さや素材を変更でき、削除も可能です。

※ 本書では、今後、仮想地盤面を削除した状態の画面で操作を進めます。

立体を確認する

「パースモニタ」ウィンドウ上で、ドラッグなどのマウス操作を使用して、視点位置を移動・回転したり、立体を拡大・縮小したりして、アングルを決めます。

⇒ 立体での画面操作、視点設定については、「基本操作編」P.19 参照



1階 平面図に切り替える

- 1 立体を確認できたら、「1階 平面図」タブをクリックして、「1階 平面図」ウィンドウに切り替えておきましょう。



8 壁の追加

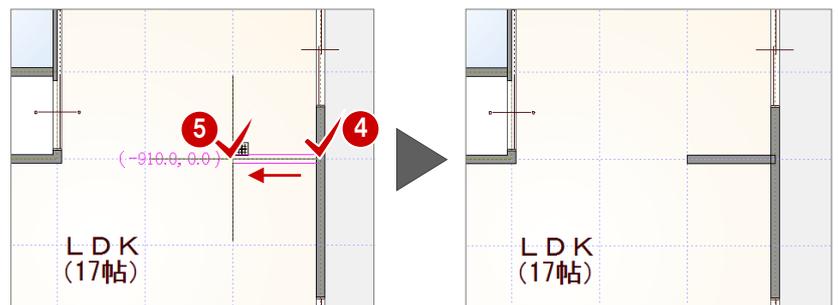
LDKに間仕切り壁を入力しましょう。

間仕切り壁を入力する

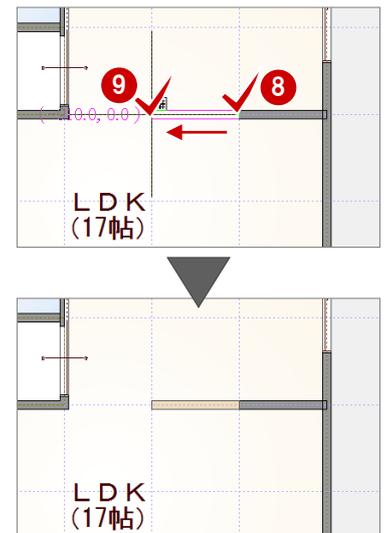
- 「柱壁」メニューから「壁」を選びます。
- 「204」がON、「壁タイプ」が「通常」であることを確認します。



- 壁の始点 ⇒ 終点をクリックします。



- 「壁タイプ」を「たれ・腰」に変更します。
- 「たれ高」を「2100」に変更します。
- たれ壁・腰壁の始点 ⇒ 終点をクリックします。

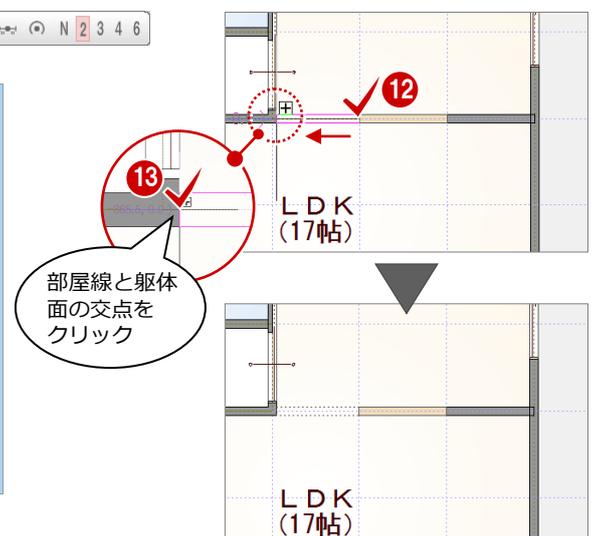


- 「壁タイプ」を「たれ」に変更します。



- 「交点」をONに変更します。

- たれ壁の始点 ⇒ 終点をクリックします。



入力位置を拡大表示したいときは

入力位置を一時的に拡大表示したいときは、ズームビューが便利です。拡大表示したい位置にマウスカーソルを移動して、Zキーを押すと表示されます。

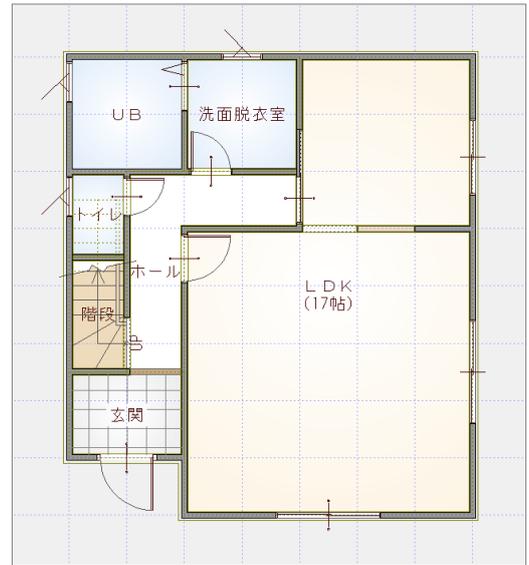
⇒ 「基本操作編」P.11 参照

仕上を作成する

追加した壁のまわりには仕上が作成されていない状態です。壁のまわりに仕上を作成しましょう。

- ① 「自動」をクリックします。
- ② 「仕上作成」をクリックします。
- ③ 「OK」をクリックします。
躯体に合わせて仕上が再配置されます。

⇒ 作成モードの概要については、「プラン作成編」P.20 参照



立体データを確認する

- ① 「パースモニタ」タブをクリックします。

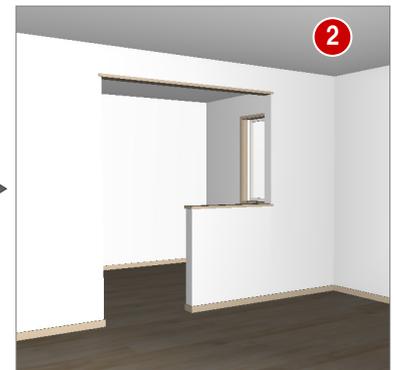


- ② 編集した間仕切り壁が見える位置に視点を変更し、立体データを確認してみましょう。

⇒ 内観の視点への変更方法については、「基本操作編」P.20 参照



【仕上作成前の LDK】



【仕上作成後の LDK】

- ③ 立体データの確認ができたなら、「1階 平面図」タブをクリックして、ウィンドウを切り替えておきましょう。



9 シンボルの入力

LDKの間仕切り壁部分のカウンターや玄関ポーチを入力しましょう。

部屋の内部に配置するシンボルは「内部」メニュー、建物の外部に配置するシンボルは「外部」メニューに用意されています。

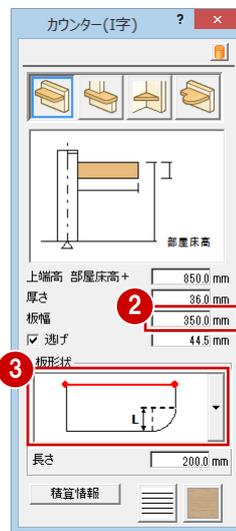
カウンターを入力する

LDKの間仕切り壁部分にカウンターを入力しましょう。

① 「内部」メニューから「カウンター」を選びます。



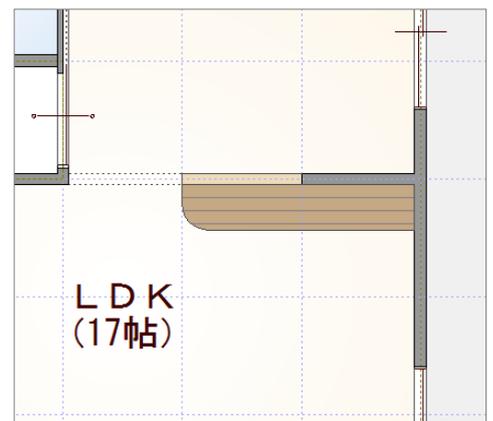
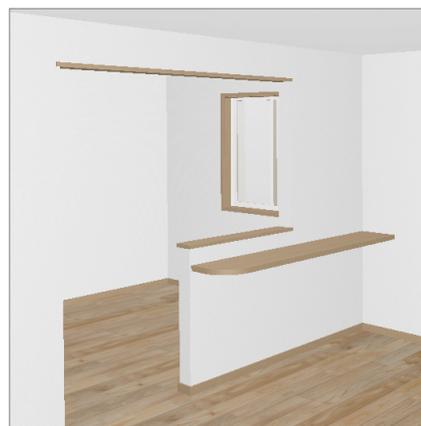
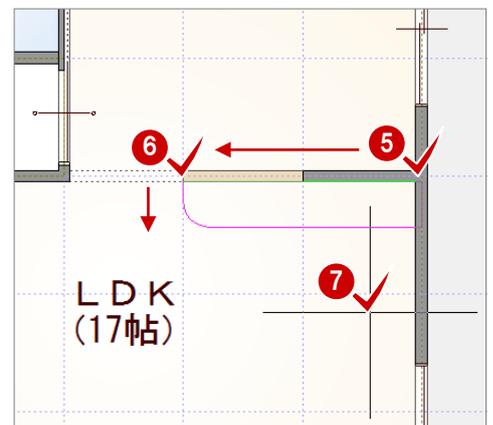
②③ 「板幅」を「350」、「板形状」を片方の角がRになっているタイプに変更します。



④ 「グリッド」のみ ON の状態に変更します。



⑤～⑦ カウンターの1点目 ⇒ 2点目 ⇒ 向きを順にクリックします。



玄関ポーチを入力する

外部シンボルのコマンドを使って、玄関部分に2段ポーチを入力してみましょう。

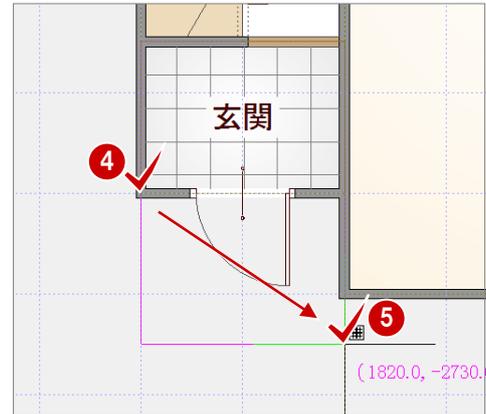
- ① 「外部」メニューから「ポーチ」の「ポーチ」を選びます。
- ②③ 「壁考慮」がON、段数が「2段」になっていることを確認します。



壁考慮について

「壁考慮」にチェックを付けておくと、壁の内部に入り込んでシンボルを入力しても、自動的に外壁の外面に合わせて領域が調整されます。

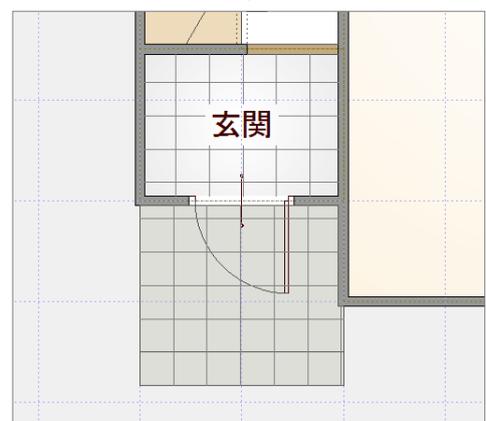
- ④⑤ ポーチ（上段）の範囲を指定します。



- ⑥⑦ 下段の開始位置 ⇒ 終了位置をクリックします。
2段の玄関ポーチが入力されます。

下段の位置指定について（操作⑥⑦）

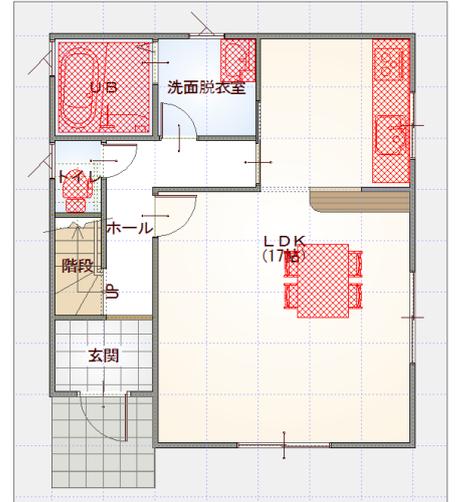
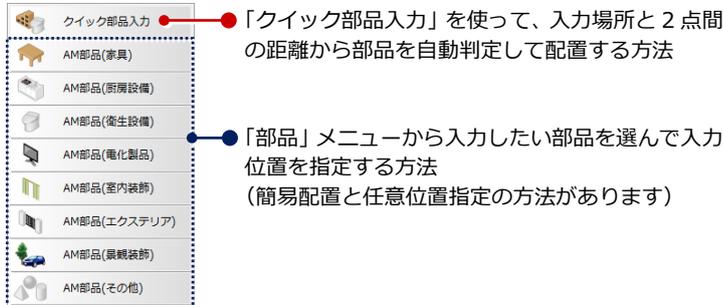
ポーチの下段は、始点から時計回りに入力します。ただし、始点をクリック後にマウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押すと、回り方向を逆転できます。



10 部品の入力

システムキッチンやユニットバス、テーブルといった設備機器や家具などは「部品」メニューに用意されています。
ここでは右図のように部品を入力しましょう。

部品の入力には、以下の方法があります。

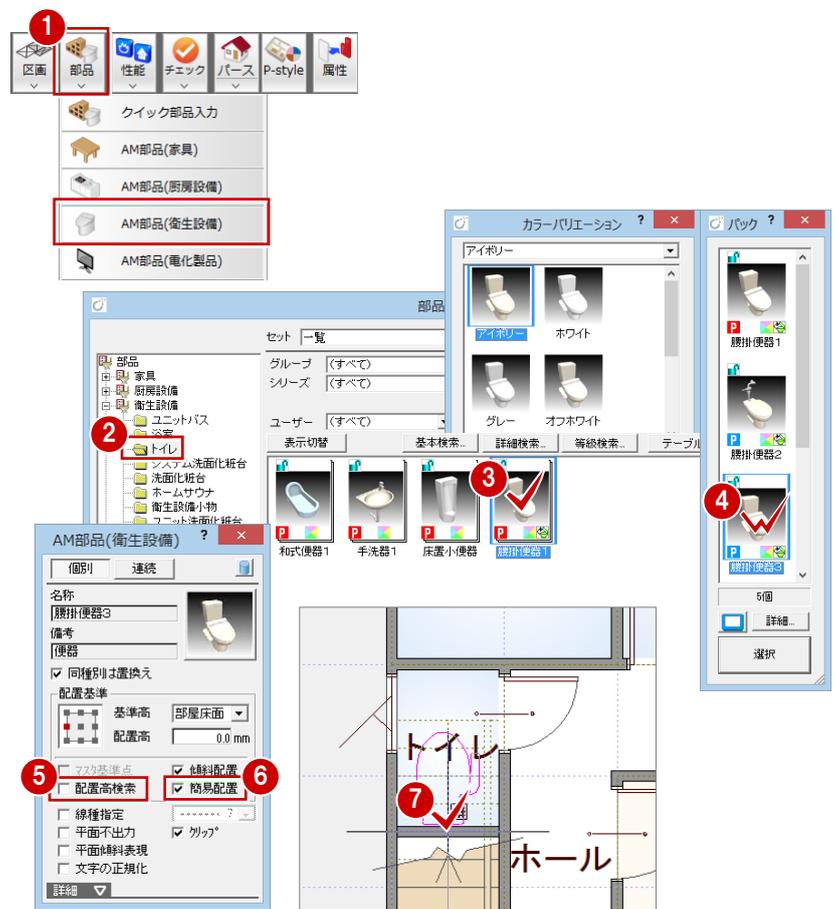


トイレに便器を入力する

簡易配置を使って、トイレに便器を入力しましょう。

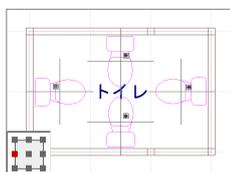
- 「部品」メニューから「AM 部品（衛生設備）」を選びます。
- ツリーから「トイレ」を選びます。
- 4 一覧で「腰掛便器 1」を選び、「バック」ダイアログから「腰掛便器 3」を選びます。
- 「配置高検索」にチェックが付いていると階段の上に便器が配置されるため、チェックをはずします。
- 「簡易配置」にチェックが付いていることを確認します。
- トイレの壁にカーソルを移動し、トイレが壁にぴったりついたら、クリックして配置します。

※ 入力したい位置にうまく部品が入らない場合は、「グリッド」を OFF にして入力してください。

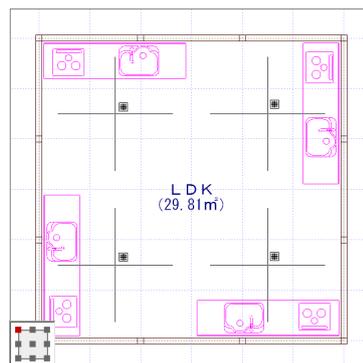


簡易配置について

簡易配置を ON にすると、配置基準をもとに、部屋線に沿って部品が自動的に回転します。
部屋の中央や隅コーナー部分に、壁仕上を考慮して（壁仕上厚分逃げた状態で）簡単に配置できます。



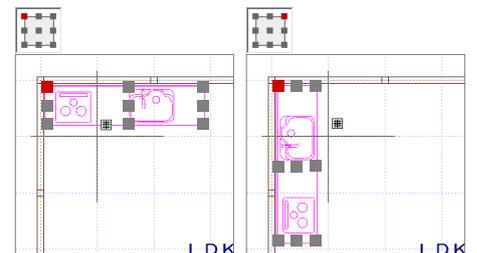
【配置基準が辺の場合】



【配置基準が角の場合】

配置基準について

部品ごとに基準点の情報を持っており、配置するとき基準位置を変更することによって、以下のように部品の向きが変わります。



【配置基準：左】

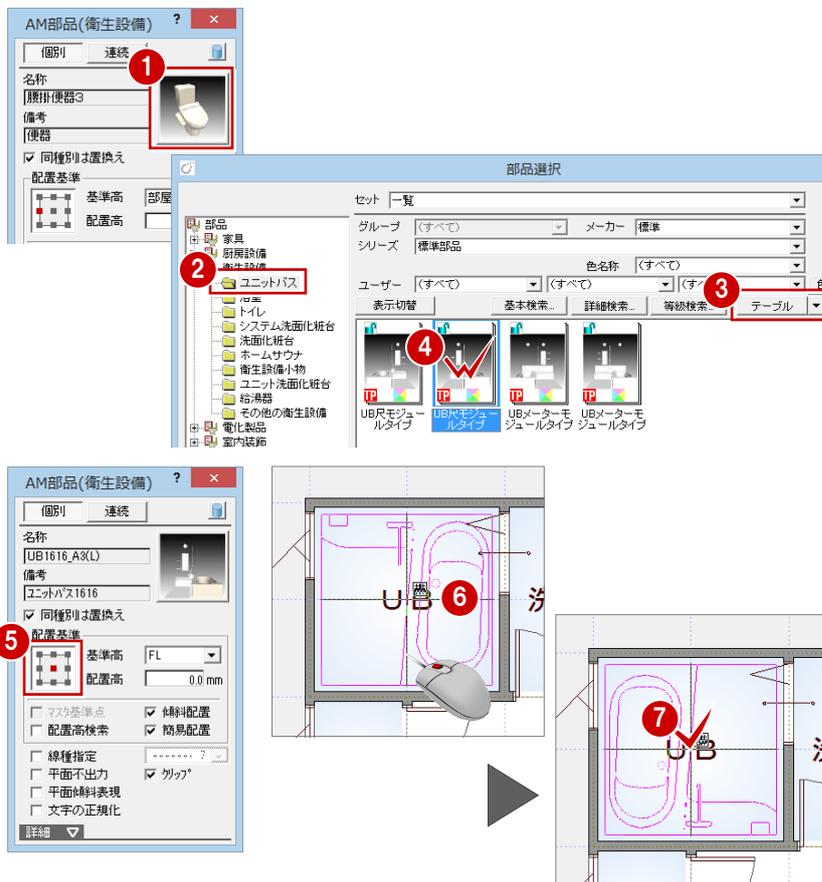
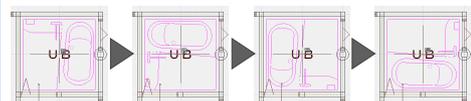
【配置基準：右上】

UB にユニットバスを入力する

- 1 アイテムの画像をクリックします。
- 2 ツリーから「ユニットバス」を選びます。
- 3 表示が「テーブル」になっていることを確認します。
- 4 一覧から浴槽が右側にある「UB 尺モジュールタイプ」を選びます。
- 5 「配置基準」を「中央」に変更します。
- 6 マウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押して、部品を回転させます。
- 7 UB 内でクリックして配置します。

部品の向きを回転するには

マウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押すと回転できます。



LDK にシステムキッチンを入力する

- 1 アイテムの画像をクリックします。
- 2 ツリーから「厨房設備」の「システムキッチン」を選びます。
- 3 4 一覧で「I 型/食洗無/レール取手タイプ」を選び、「カラーバリエーション」ダイアログから「ダークブラウン」を選びます。
- 5 右図のようにカーソルを移動し、システムキッチンがコーナーにぴったり付いたら、クリックして配置します。



ダイニングテーブルを入力する

任意の位置にダイニングテーブルを入力しましょう。

- 「部品」メニューから「AM 部品 (家具)」を選びます。



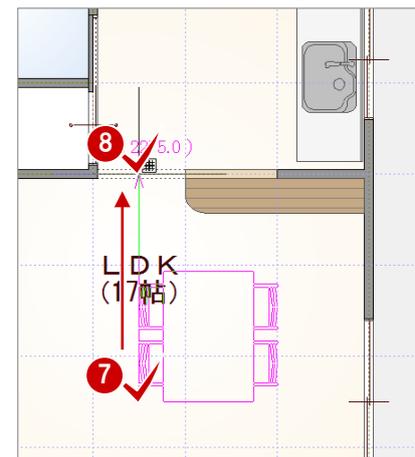
- ツリーから「ダイニング家具」を選びます。

- 4 一覧で「ダイニングテーブルセット 2」を選び、「パック」ダイアログから「ダイニング 7」を選びます。



- 任意の位置に入力するため、「簡易配置」のチェックをはずします。

- 8 入力方法を「1点方向」に変更し、ダイニング家具をLDKに配置します。



※ 1点目⑦をクリックした後にスペースキーを押すと、水平・垂直方向に次の点を指定できます。

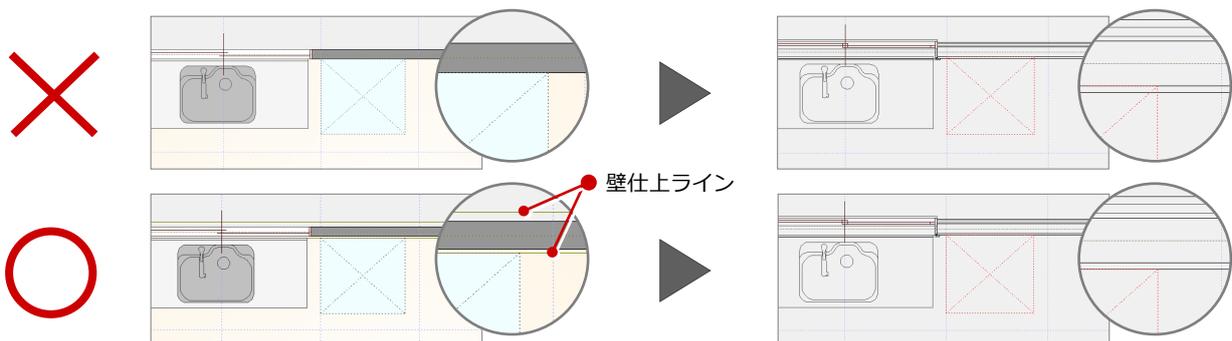
入力方法の切り替え

入力方法を「+1点」のまま、Shiftキーを押しながら入力することで、一時的に「1点方向」に切り替えることができます。

壁際の任意の位置に部品を入力する場合

「簡易配置」のチェックをはずして壁際に部品を入力する場合は、「表示」メニューの「仕上表示」をクリックして壁仕上ラインを表示させ、壁仕上ラインに沿って部品を入力します。

壁に沿って入力していると、平面詳細図では壁仕上に食い込んだ状態になります。

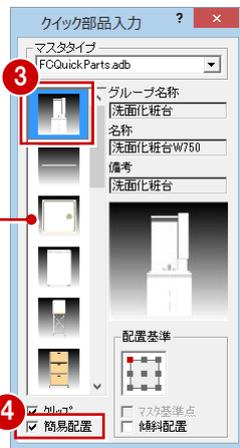


洗面化粧台を入力する

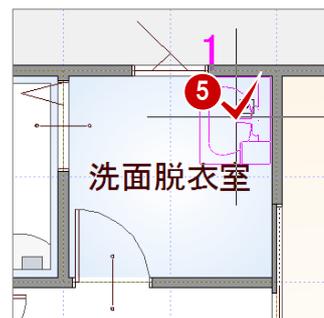
クイック部品入力を使って、洗面化粧台を入力しましょう。

- ① 「部品」メニューから「クイック部品入力」を選びます。
- ② 部品を配置する部屋上にマウスのカーソルを置きます。
その部屋に登録されている部品リストが表示されます。
- ③ リストから配置したい部品を選びます。
- ④ 「簡易配置」にチェックが付いていることを確認します。
- ⑤ 部品の配置位置をクリックします。
- ⑥ 配置したい部品が表示されたらクリックします。ここでは1番目のサイズの部品を配置します。

⇒ クイック部品入力については、「基本操作編」P.9 参照



リストの部品は、マウスのホイールボタンを回して変更することもできます。



AM 部品について

標準で添付されている部品の他に、建材データダウンロードサイト「Virtual House.NET」より実建材データをダウンロードしてご利用いただくことができます（無料）。<http://www.virtual-house.net/>「処理選択」ダイアログの「共通」タブをクリックして、「FCA」にある「VH.NET」をダブルクリックすると、Virtual House.NET のトップページが開きます。



11 図面を仕上げる

部屋名を移動する

ダイニングテーブルと重なっている部屋名を、見やすい位置に移動しましょう。

- 1 「部屋」メニューから「部屋名移動」を選びます。
- 2 部屋名（ここでは「LDK」）をクリックします。
- 3 「グリッド」のみ ON の状態にします。
- 4 部屋名の移動先をクリックします。



図面化を行う

1 階平面図を図面化して、部屋寸法の入力、目地ぬき処理を行いましょう。

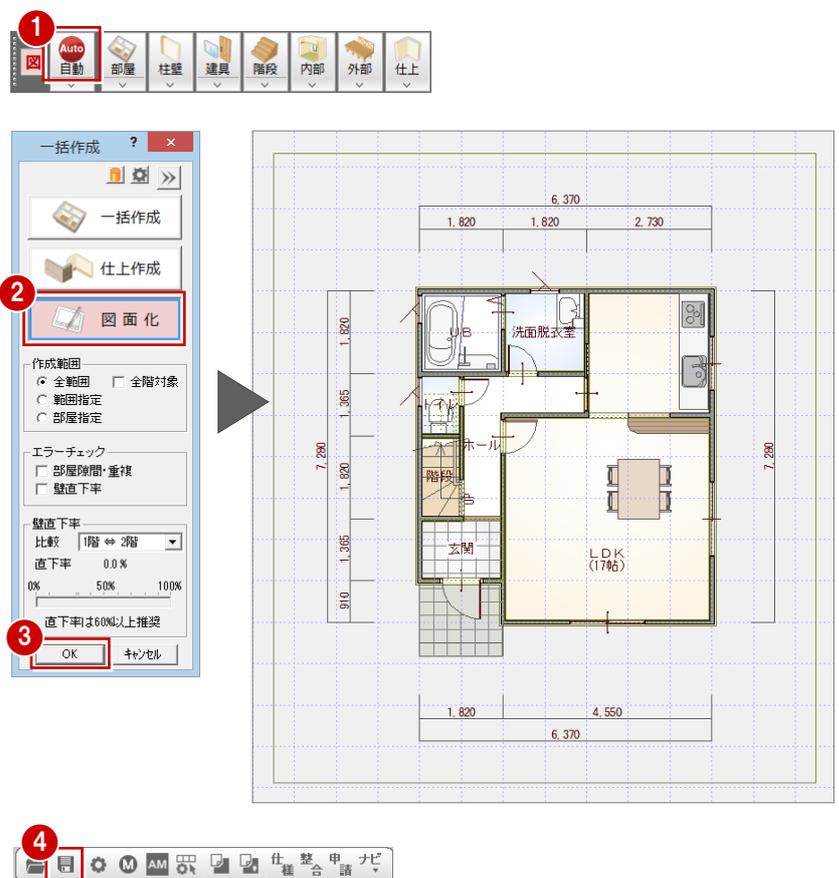
- 1 「自動」をクリックします。
- 2, 3 「図面化」をクリックして、「OK」をクリックします。
部屋のまわりに寸法線が作成され、玄関戸部分が目地ぬき処理されます。

部屋寸法線について

「部屋」メニューの「部屋寸法」でも入力できます。

目地ぬき処理について

「ツール」メニューの「目地ぬき処理」でも目地ぬき処理を行えます。



- 4 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。

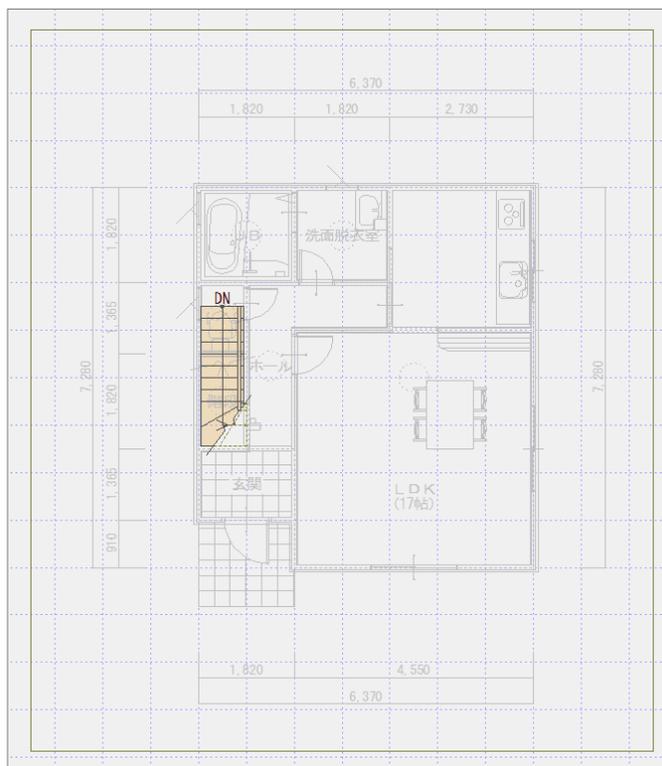
12 2階の入力

1階平面図が入力できたら2階平面図を開いて、1階と同様な流れでデータを入力していきましょう。

作成階を変更する

- 「上階を開く」をクリックします。
「2階 平面図」ウィンドウが開いて、1階平面図から作図範囲と階段が複写されます。

① 「上階を開く」をクリックすると、「ウィンドウ」メニューの「他階を開く」を選択後、「2階」を指定しても同様の操作が行えます。



2階に複写された階段について

初めて2階平面図を開いたときは、1階で入力している階段が自動的に複写されます。この階段は導線が下向きで、立体は表現されないように属性も変更されています。

2階のデータを入力した後で1階の階段を変更した場合は、2階平面図で「階段」メニューから「階段階複写」を選んで、1階の階段を反映させます。



部屋を入力する

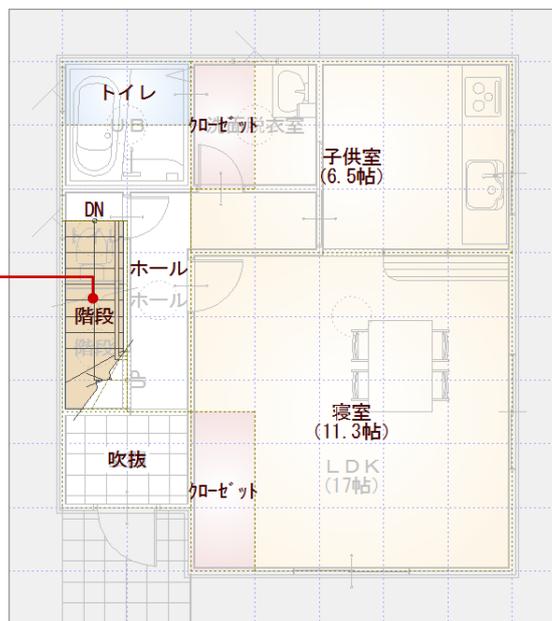
バック表示されている1階平面図を参考に、2階の間取りを入力しましょう。

- ①～③「部屋」をクリックして、「吹抜」「階段」「ホール」「トイレ」「子供室」「寝室」「クローゼット」を順に入力します。

※「グリッド」のみON、「グリッド分割」が「2」で入力します（入力方法：矩形）。

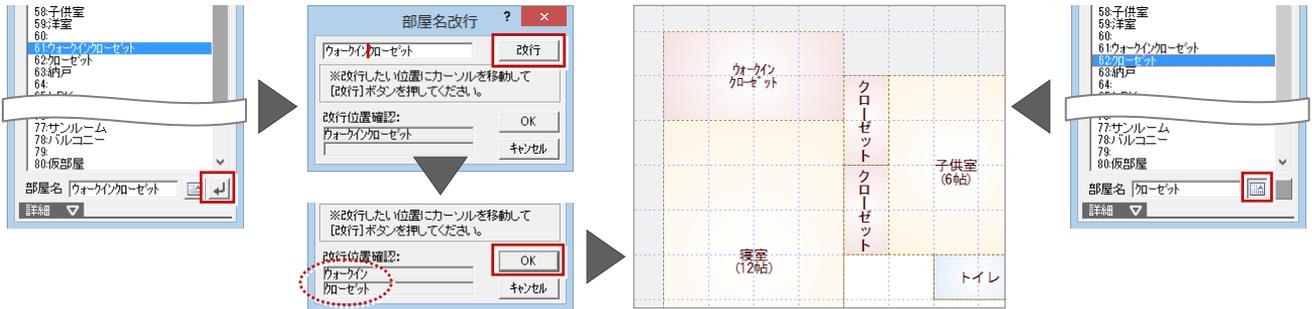


階段も忘れずに、部屋を入力しましょう。



部屋名を改行するには

「ウォークインクローゼット」のように長い部屋名は、改行して2段表示にすることができます。部屋名を改行するには、「部屋」ダイアログで部屋を選んだ後に、「改行」をクリックして改行位置を指定します。



部屋名を縦書きにするには

「クローゼット」のように横幅の狭い領域に縦書きに部屋名を表示したい場合には、「部屋」ダイアログで部屋を選んだ後に、「縦書き」をONにします。

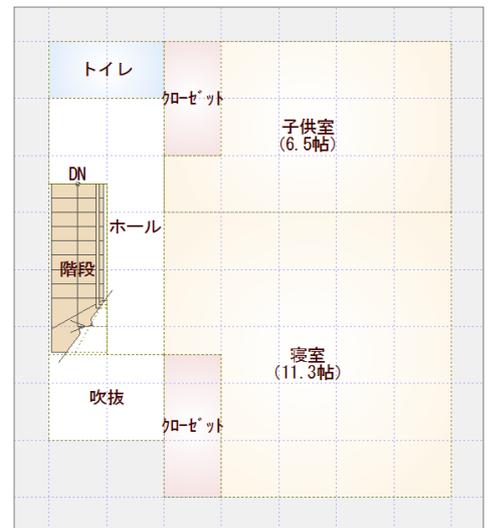
バック図面を非表示に切り替える

部屋の入力が終わったら、1階平面図のバック表示を消しておきましょう。

- 「バック図面表示切替」をOFFにします。
1階のバック表示が消えます。



もう一度バック図面を表示したいときはONにします。



バック図面を削除するには

バック図面を一時的な非表示ではなく削除するには、「ファイル」メニューの「バック図面・バックデータ」の「バック削除」を選びます。

※ この操作は、元に戻すことはできません。

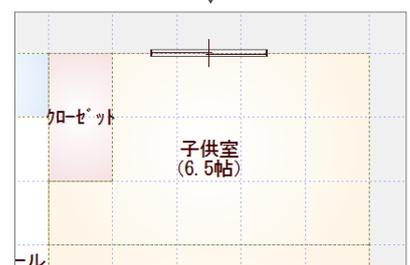
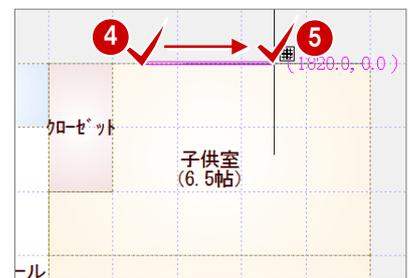
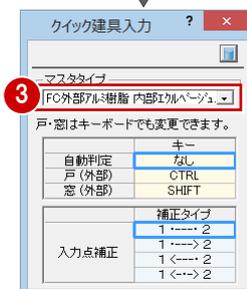


建具を入力する

クイック建具入力を使って、2階平面図に建具を入力しましょう。

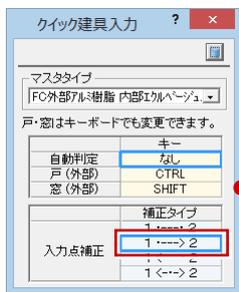
- 「建具」をクリックします。
- 「クイック建具入力」ダイアログが閉じた状態になっているので、タイトル部分をダブルクリックして開きます。
- 「マスタタイプ」が「FC 外部アルミ樹脂 内部エクルベージュ.adb」であることを確認します。
- 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。

⇒ クイック建具入力については、「基本操作編」P.8 参照

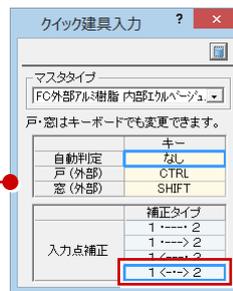
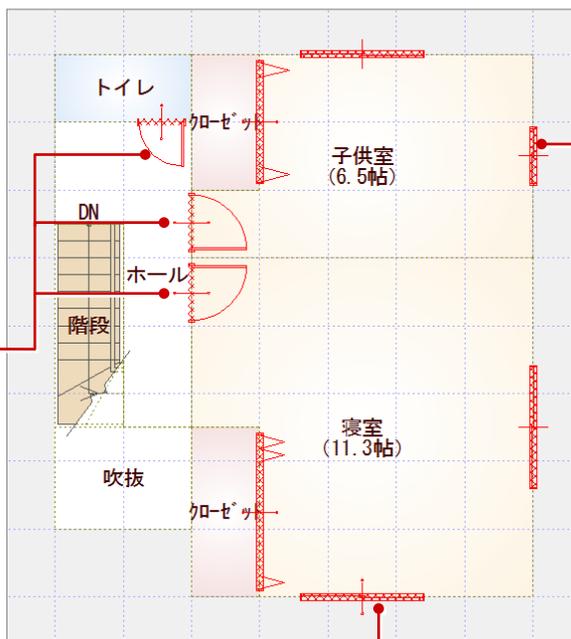


6 同様な操作で、他の建具を入力します。

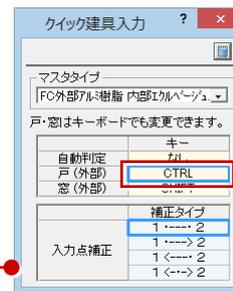
片開きドアが入る場合は1点目が吊り元、片引き戸が入る場合は1点目が扉側になります。



※ トイレ・子供室・寝室の戸は、「補正タイプ」を「1<--->2」に切り替えます。



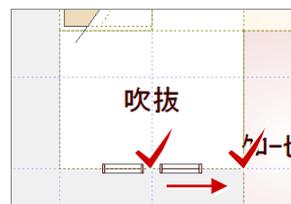
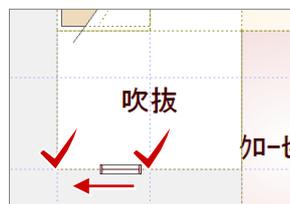
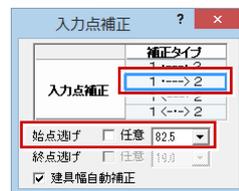
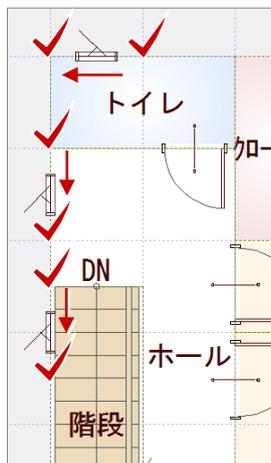
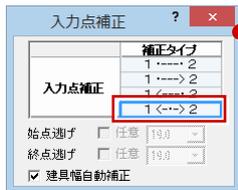
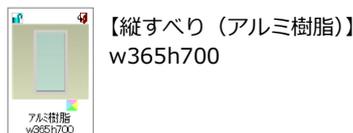
※ 子供室東側の窓は、「補正タイプ」を「1<--->2」に切り替えます。



※ 寝室の玄関正面側は、Ctrlキーを押しながら入力します（掃き出しが入ります）。

残りの建具を入力する

右図のように、トイレ、ホール、階段、吹抜の建具を入力します。



壁・仕上を一括作成する

2階平面図の部屋、建具データを入力できたら、躯体、仕上、シンボルを一括作成しましょう。

- 1 「自動」をクリックします。
- 2,3 「一括作成」がONであることを確認して、「OK」をクリックします。

部屋線の上に壁が配置され、仕上などの部材も同時に配置されます。

2階 天井伏図を開く

「一括作成」で天井仕上も配置されるため、自動的に「2階 天井伏図」が開いた状態になります。



バルコニーを入力する

外部シンボルを使って、寝室の南側にバルコニーを入力しましょう。

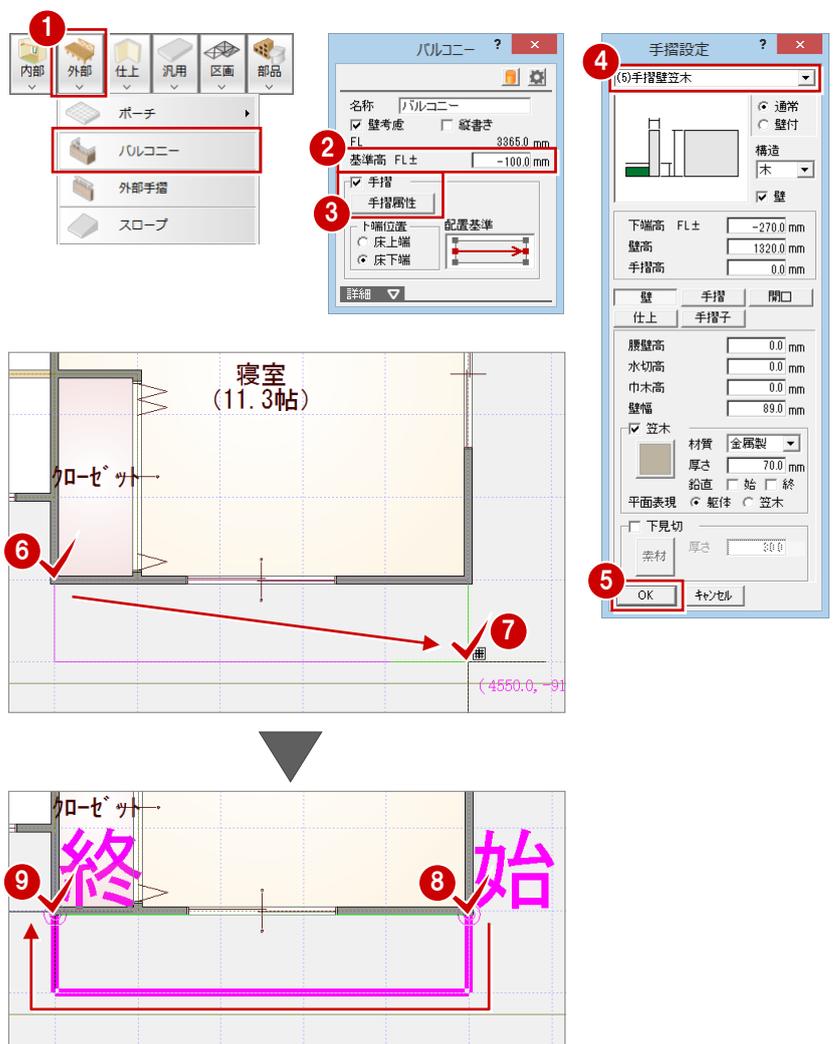
- 1 「外部」メニューから「バルコニー」を選びます。
- 2 「基準高」を「-100」に設定します。
- 3 「手摺」にチェックが付いていることを確認して、「手摺属性」をクリックします。
- 4,5 「(5) 手摺壁笠木」に変更して、「OK」をクリックします。

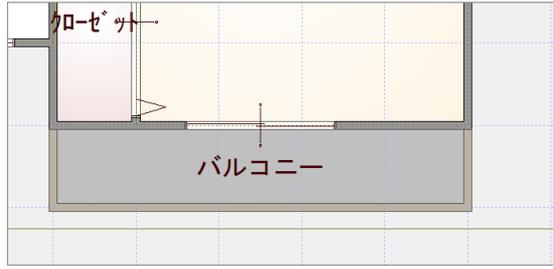
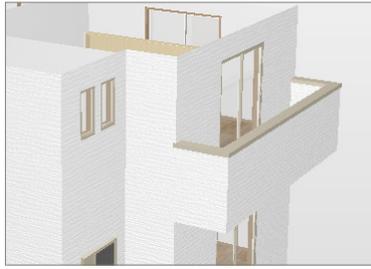
- 6,7 バルコニーの範囲を指定します。
(入力方法：矩形)

- 8,9 手摺の開始位置 ⇒ 終了位置をクリックします。

手摺の位置指定について

手摺は、始点から時計回りに入力します。ただし、始点をクリック後にマウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押すと、回り方向を逆転できます。



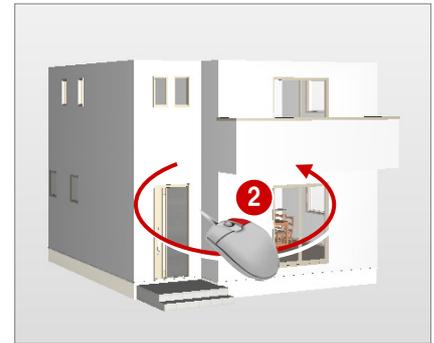


外観を確認する

パースモニタに切り替えて、外観を確認してみましょう。

- ① 「パースモニタ」タブをクリックします。
- ② マウス操作を使って、外観を確認します。

※ 確認が終わったら、吹抜の建具が見える位置に視点を変更しておきましょう。



建具の取付高を変更する

吹抜の Fix 窓を選んで、取付高を変更しましょう。

- ① 「属性」をクリックします。
- ② 吹抜の Fix 窓を選びます。
- ③④ 「取付高」を「-600」に変更して、「OK」をクリックします。
Fix 窓の取付高が変更されます。



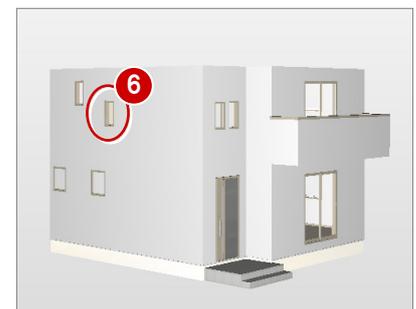
属性変更について

パースモニタ上でデータをダブルクリックしても、属性変更が可能です。

データ選択時の選択表現

パースモニタ上でデータを選択したときの赤色表示は、背景の部分をクリックするか、マウスを離すことで解除できます。

- ⑤⑥ 同様な操作で、もう一か所の Fix 窓、階段部分の縦すべり窓の「取付高」を「-600」に変更します。



図面を仕上げる

2階平面図のデータを入力できたら、部屋寸法を入力しましょう。

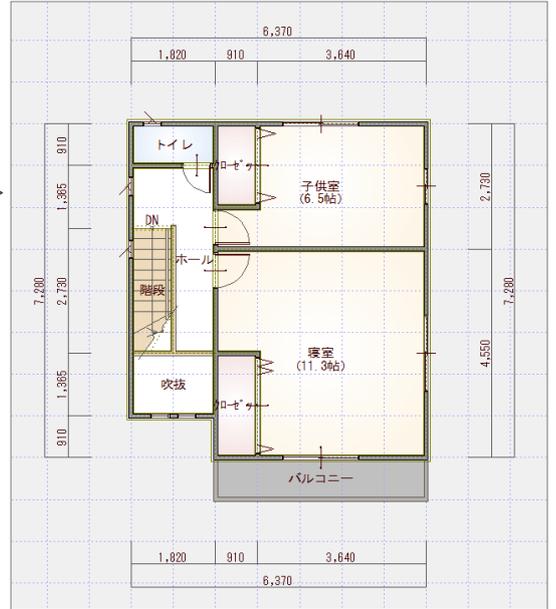
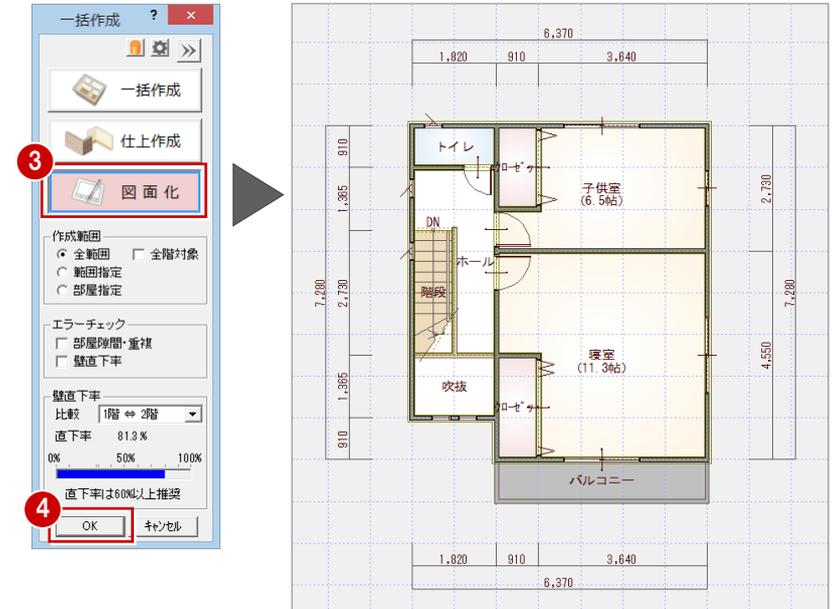
① 「2階 平面図」タブをクリックして、ウィンドウを切り替えます。



② 「自動」をクリックします。



③④ 「図面化」をクリックして、「OK」をクリックします。
部屋のまわりに寸法線が作成されます。



⑤ 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



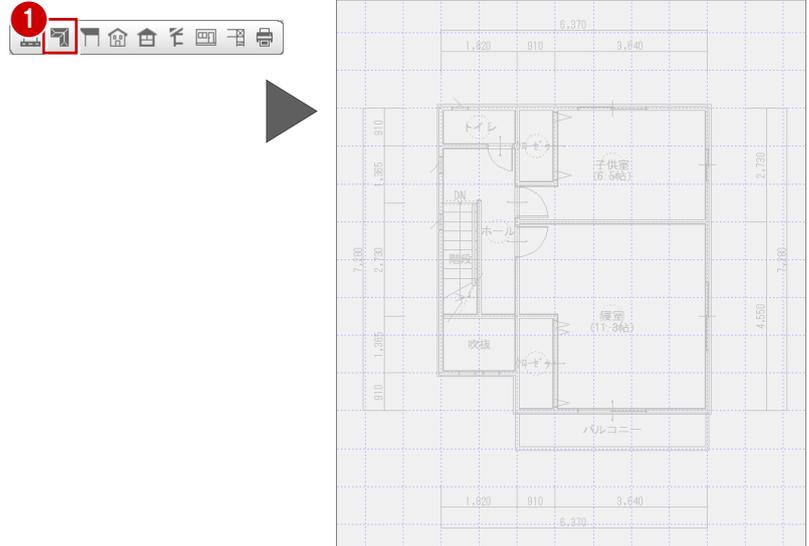
13 屋根の入力・天井仕上の確認

1階、2階平面図が入力できたら、屋根伏図で屋根を入力しましょう。

また、屋根伏図が入力できたら、天井伏図で内部と外部の天井仕上を確認しましょう。

2階 屋根伏図を開く

- 1 「屋根伏図」オープン」をクリックします。
「2階 屋根伏図」ウィンドウが開きます。



他の処理図面を開く

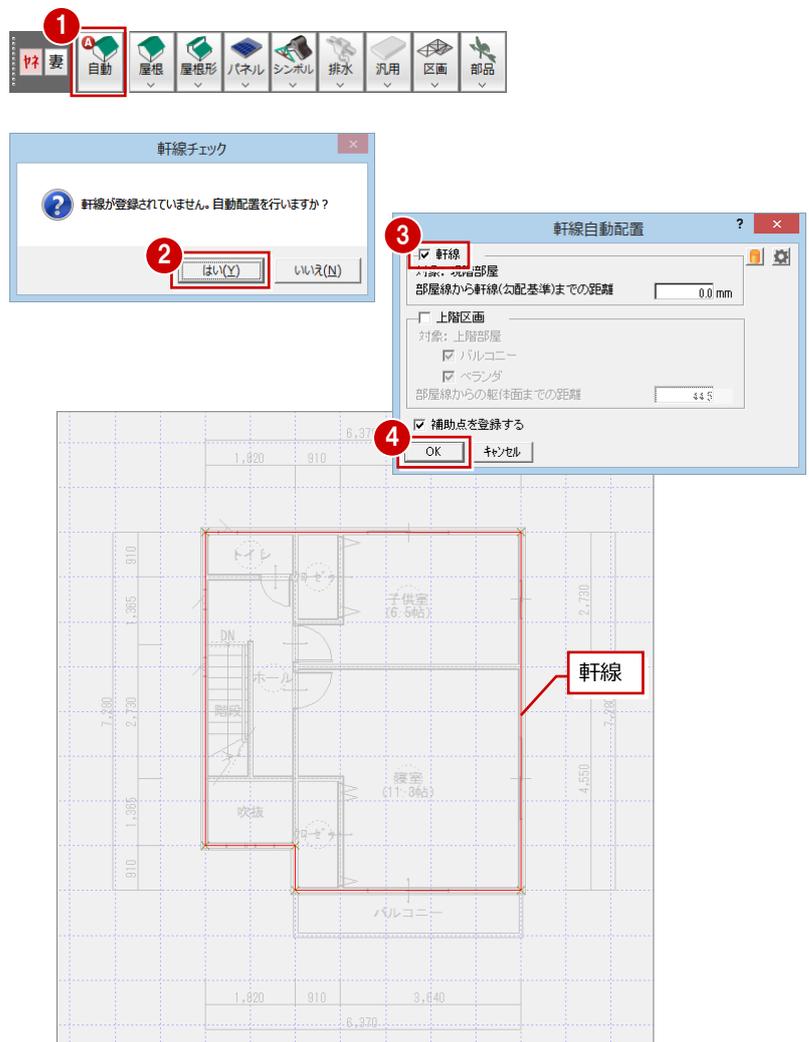
平面図から屋根伏図や天井伏図など関連する処理図面をダイレクトに開くコマンドが、ツールバーに用意されています。

これ以外の図面を開くときは、「ウィンドウ」メニューから「他の処理図面を開く」を選んで、「処理選択」ダイアログから図面を開きます。

屋根を自動配置する

2階平面図の部屋データから、屋根の基準となる軒線と2階屋根を自動配置しましょう。

- 1 「自動」をクリックします。
- 2 確認画面で「はい」をクリックします。
- 3,4 「軒線」にチェックが付いていることを確認して、「OK」をクリックします。
軒線が配置され、「形状設定」ダイアログが開きます。

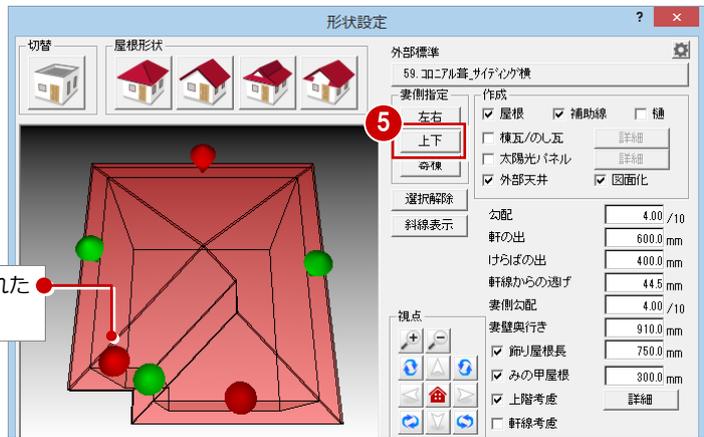


軒線について

軒線は、軒の位置を表す基準線です。
屋根の自動配置では、軒線と上階区画（上階建物の躯体面）を考慮して作成されます。

5 「妻側指定」の「上下」をクリックします。

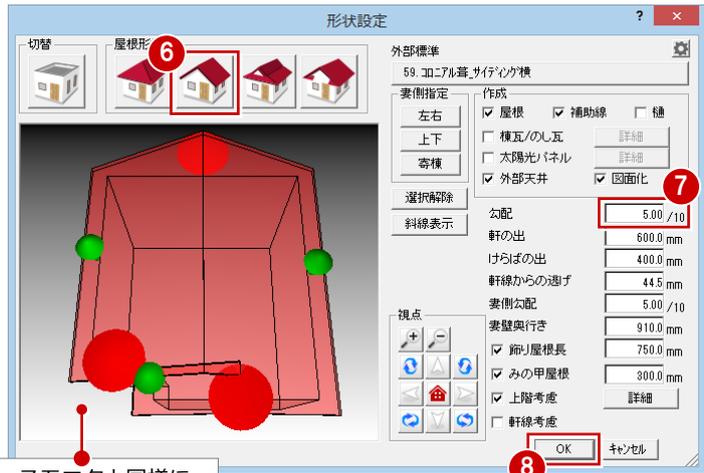
モニタ上で、上下に配置されたマーカーが選択されます。



6 「屋根形状」の「切妻」をクリックします。
マーカーで選択された屋根が切妻の表現に変更されます。

7 「勾配」を「5」に変更します。

8 「OK」をクリックします。
上下が切妻の屋根が作成されます。

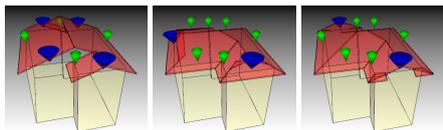


パースモニタと同様に、視点を調整できます。

モニタ上のマーカーについて

- 緑：屋根形状が寄棟（選択状態：赤）
- 青：切妻・入母屋・飾り切妻の妻側（選択状態：赤）

モニタ上のマーカーをクリックして「屋根形状」のボタンを押すと、切妻・入母屋などの形状に変えることができます。



屋根の形状を初期の状態に戻すには、「屋根形状」の「寄棟」をクリックします。

切替ボタンについて

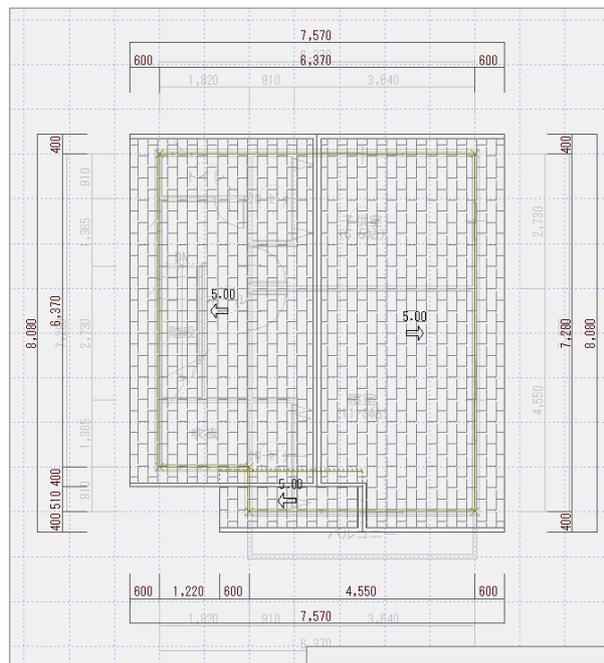
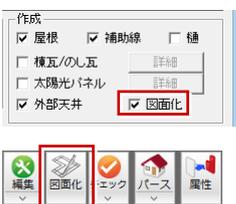
「陸屋根切替」をクリックすると、陸屋根の形状設定ダイアログに切り替わります。



図面として仕上げる（図面化）

「図面化」にチェックを付けておくと、データの重なりを包絡したり、勾配基準線などを表示して、図面として仕上げるすることができます。

※「図面化」コマンドを使用しても同様です。



玄関庇を入力する

2階屋根を配置できたら、1階玄関部分に庇を入力しましょう。

① 「下階を開く」をクリックして、1階屋根伏図を開きます。

② 「屋根」メニューから「庇」の「庇自動配置」を選びます。

③ 「庇タイプ」が「洋風1」であることを確認します。

④～⑥ 次のように設定します。

「取付位置」：300

「庇の出」：700

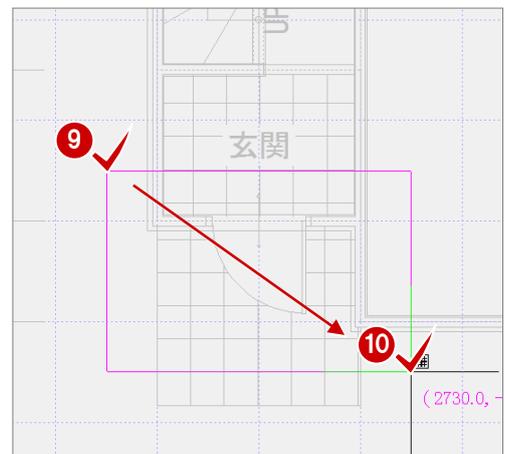
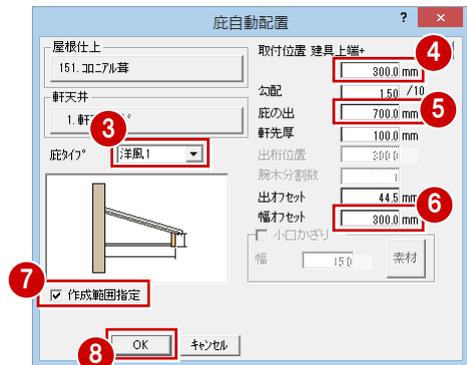
「幅オフセット」：300

⑦⑧ 「作成範囲指定」にチェックを付けて、「OK」をクリックします。

⑨⑩ 庇を配置する範囲を指定します。

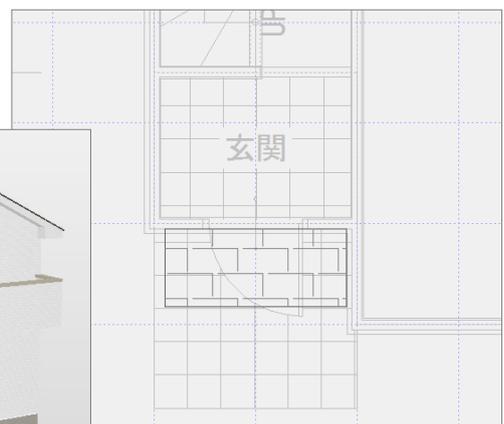
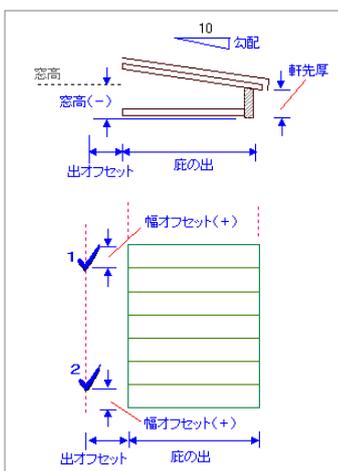
右図のように、玄関ドアを含む範囲で指定します（入力方法：矩形）。

⇒ 下屋の入力については、「プラン作成編」P.36、37 参照



庇自動配置について

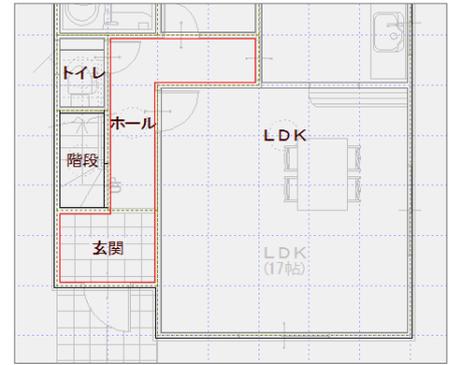
指定した範囲内にある平面図の建具データを参照して、庇を自動配置します。



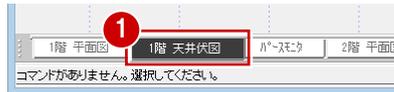
1 階の天井を再作成する

天井伏図では、平面図の一括作成によって部屋データをもとに内部天井仕上が作成され、屋根の自動配置によって軒天に外部天井仕上が作成されています。天井仕上を確認して、必要があれば再作成しましょう。

ここでは、1階玄関部分（上階は吹抜）に天井が配置されているため（右図）、天井仕上を再作成します。



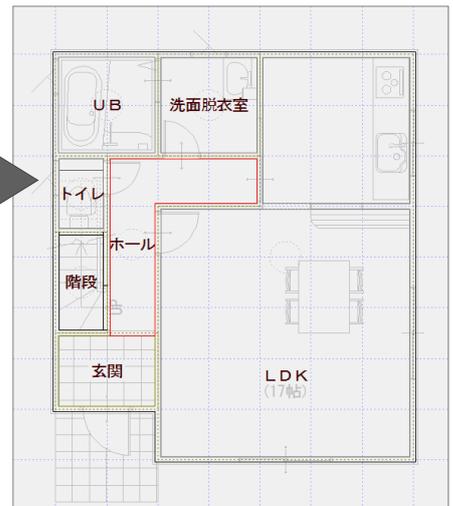
- ① 「1階 天井伏図」タブをクリックします。



- ② 「自動」をクリックします。



- ③ 「はい」をクリックします。

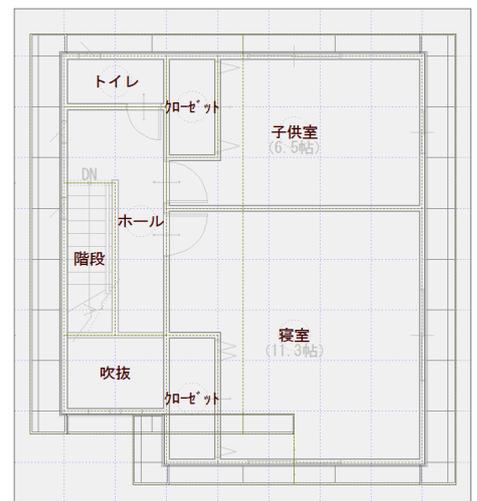


2 階の天井を確認する

- ① 「2階 天井伏図」タブをクリックして、天井仕上を確認します。



- ② 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



天井伏図では

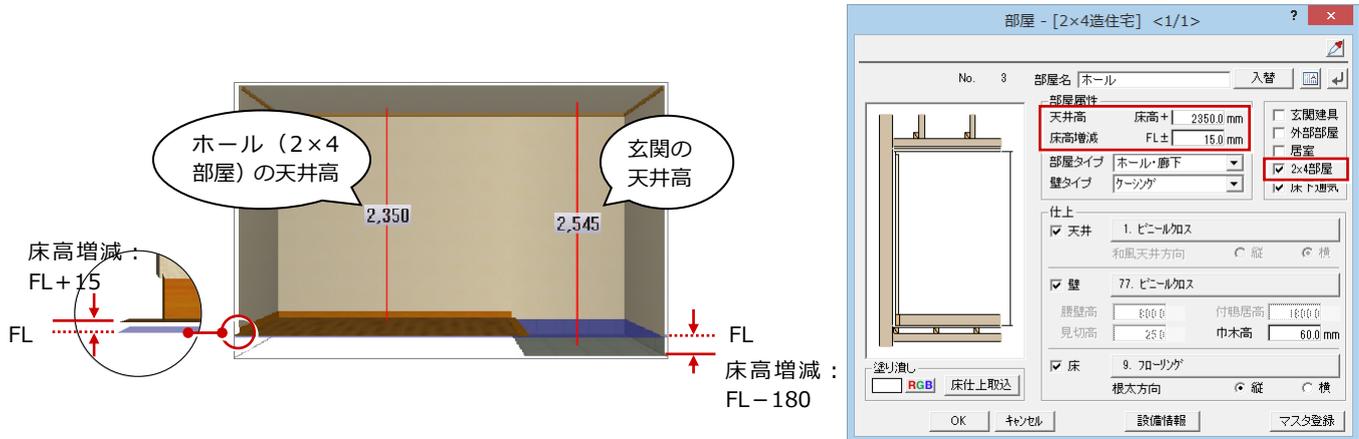
平面図で入力した部屋の天井高と天井仕上を参照して内部天井仕上が、屋根を参照して外部天井仕上が作成されます。勾配天井の入力や、室内の照明器具の配置も可能です。



1 FL 基準と床高・天井高の考え方

木造では床仕上面が FL ですが、2×4 では構造用合板の天端が FL となります。

ここでは、部屋の属性ダイアログにおいて、部屋の高さに関する「2×4 部屋」「床高増減」「天井高」について解説します。



■ FL 基準

FL 基準（構造用合板の天端）は、床厚（構造用合板の厚さ+根太）によって変わります。

※ 構造用合板の厚さは、「物件初期設定（基準高さ情報）」ダイアログの「構造用合板」タブで設定します（初期値は 15.0 mm）。

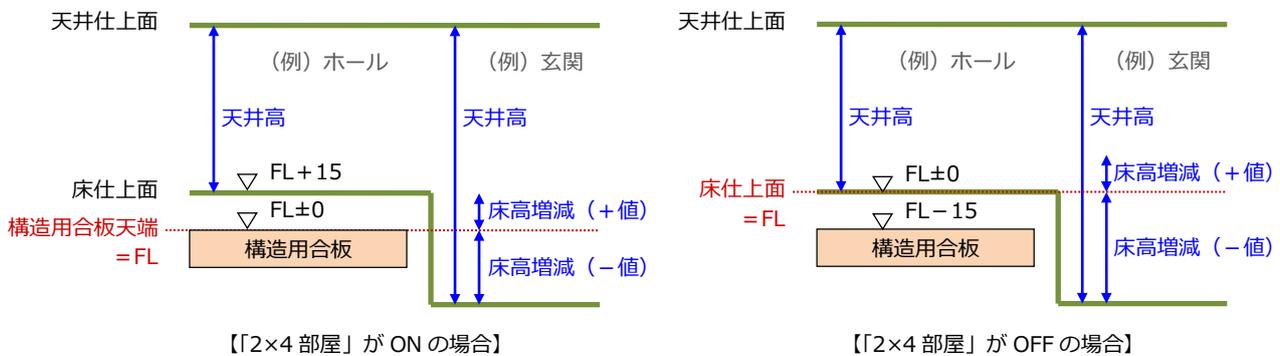
■ 「2×4 部屋」

構造用合板の天端を FL 基準（FL±0 mm）とする設定です。

洋室など構造用合板が関係する 2×4 の部屋は、「2×4 部屋」を ON にします。

※ 出荷時の 2×4 用の部屋マスタは、「2×4 部屋」が ON になっています。玄関、UB など構造用合板が関係しない部屋は OFF ですが、床高増減は構造用合板の天端（=FL）が基準です。

次図は、「2×4 部屋」の ON・OFF による違いを示したものです。OFF の場合は木造同様、床仕上面が FL になります。



■ 「床高増減」(床仕上面)

構造用合板天端 (FL±0 mm) から「仕上厚+下地厚」上がったところが床仕上面となるため、「床高増減」には、使用している床仕上マスタの「仕上厚+下地厚」が入ることになります。

上図 (左) の場合、「仕上厚=15.0 mm、下地なし」であるため、「床高増減」は「FL+15.0 mm」となります。

※ 「2×4 部屋」を OFF から ON に切り替えると、自動的に「床高増減」に床仕上の「仕上厚+下地厚」の値が取り込まれます。

■ 「天井高」

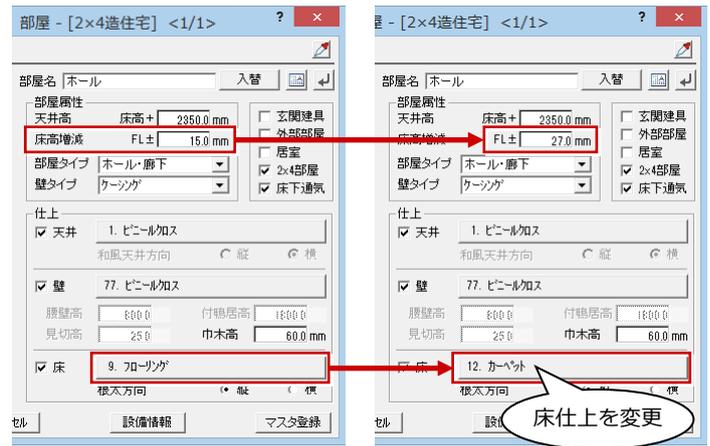
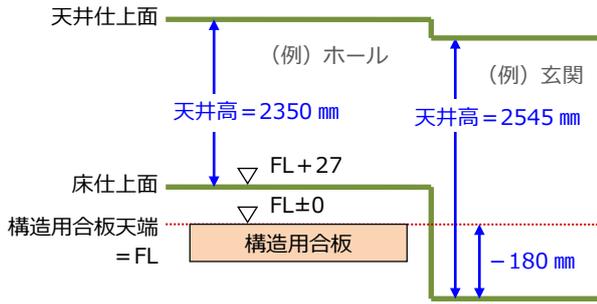
天井高とは、FL±0 mmからではなく、床仕上面からの高さです。

上図 (左) の場合、床仕上面 (FL+15 mm) の位置からの高さとなります。

※ 使用する床仕上マスタを変更して床仕上厚が変わった場合、隣り合う部屋で天井面を揃えておきたいときは、天井高を調整する必要があります。 ⇒ 次ページ参照

隣り合う部屋の天井面を揃えるには

例えば、ホールの床仕上（仕上厚+下地厚）を 15 mm ⇒ 27 mm に変更した場合、下図のように玄関とホールの天井面が揃いません。

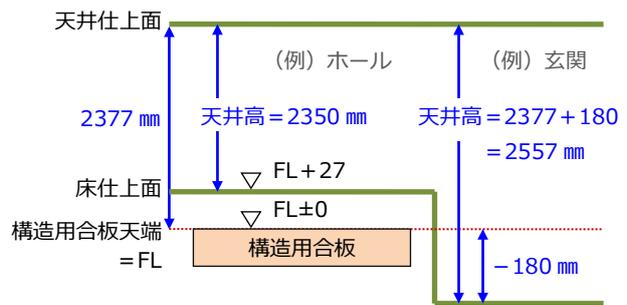


【ホールの部屋属性ダイアログ】

使用する床仕上マスタを変更して床仕上厚が変わった場合、隣り合う部屋の天井面を揃えておきたいときは、部屋属性ダイアログの天井高と床高増減を調整し、仕上を再作成します。

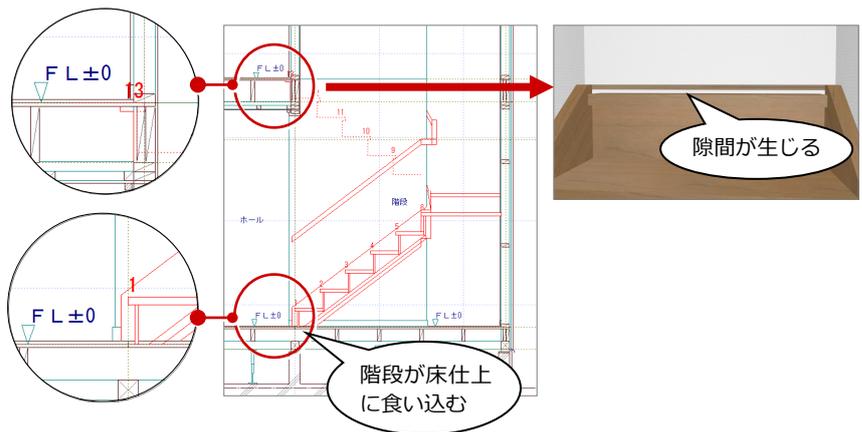


【玄関の部屋属性ダイアログ】

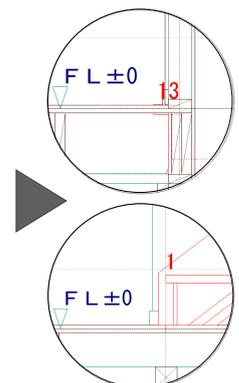
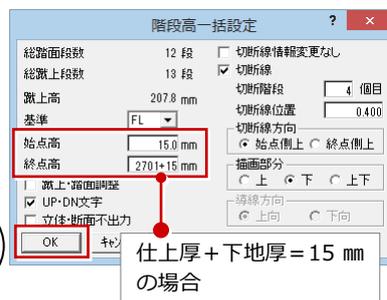
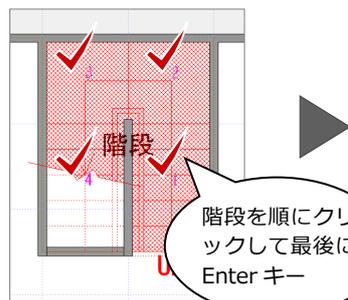


階段とホールの床仕上を揃えるには

階段の高さと構造用合板の天端は FL 基準となっているため、階段の始点高と終点高が「FL±0 mm」の場合、右図のように階段の天端と床仕上が揃いません。



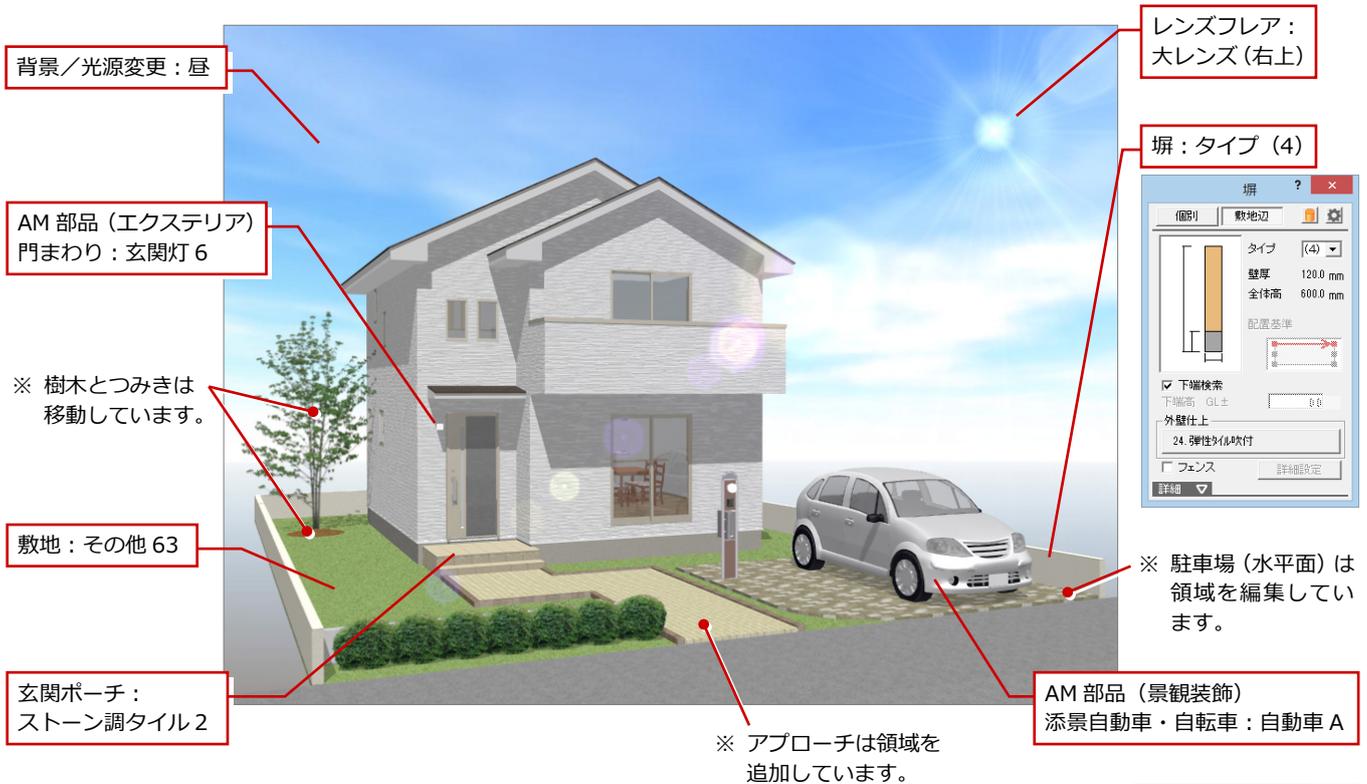
このようなとき、階段と床仕上を揃えるには、始点高・終点高それぞれに「仕上厚+下地厚」をプラスします。
※ 直行階段、廻り階段など複数ある場合は、「階段」メニューの「階段高一括」を使用します。



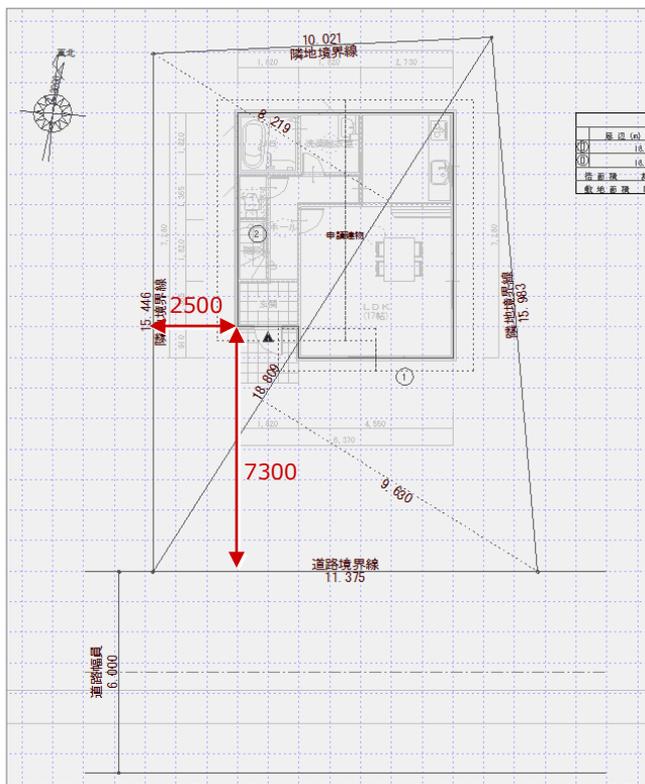
2 外観パースの完成図

下図は、配置図で敷地・道路・外構を入力し、パースモニタで素材や背景の設定を変更した画像です。

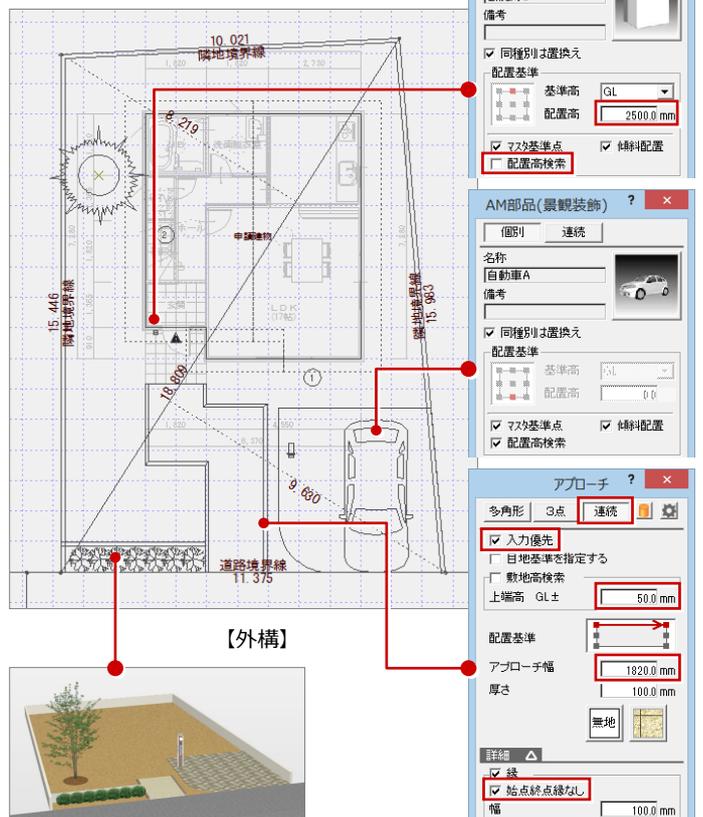
※ 配置図の入力方法、外観パース・立面図の作成方法、図面印刷の操作方法については、「プラン作成編」を参照してください。



■ 配置図



【敷地・道路】



【外構】

外構パターン：
「*2 ページ 2」 タブの「TYPE_02」

AM部品(エクステリア) ? x

個別 連続

名称 [玄関灯6]

備考

同種別は置換え

配置基準

基準高 GL ±

配置高 2500.0 mm

マス基準点 傾斜配置

配置高検索

AM部品(景観装飾) ? x

個別 連続

名称 [自動車A]

備考

同種別は置換え

配置基準

基準高 GL ±

配置高 0.0

マス基準点 傾斜配置

配置高検索

アプローチ ? x

多角形 3点 連続

入力優先

目地基準を指定する

敷地高検索

上端高 GL ± 50.0 mm

配置基準

アプローチ幅 1820.0 mm

厚さ 100.0 mm

無地

詳細

縁

始点終点線なし

幅 100.0 mm

ちり 30.0 mm

無地